

## 施工説明書

(詳細版)

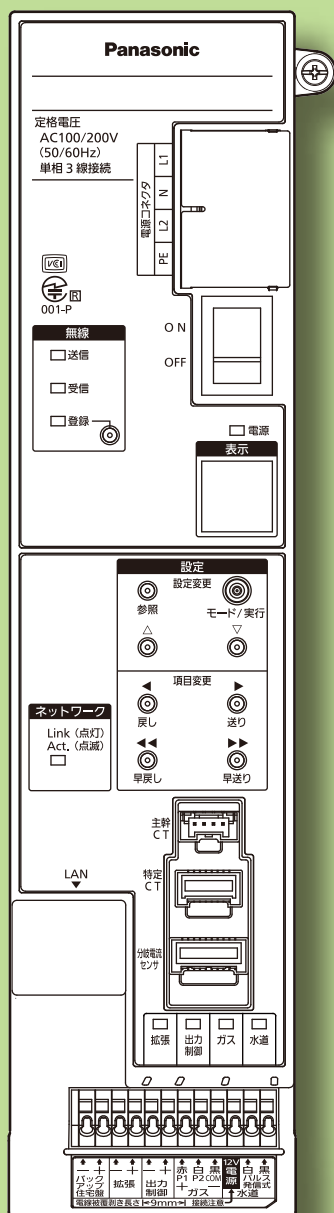
## 住宅分電盤専用 エコーネットライト 対応計測アダプタ

〈対象製品品番はカタログなどでご確認ください〉

施工店様へ

お買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- この説明書をよくお読みの上、正しく施工してください。
- 有資格者以外の方の電気工事は、法律で禁止されていますので絶対に行わないでください。






## もくじ


免責事項	2
本製品でできること	3
取扱上のご注意	3
施工上のご注意	4
各部のなまえとはたらき	5
施工方法	7
配線例	19
計測値異常時の施工確認項目	24
エラーが表示されたら	27
モニターの表示がおかしいときは	28
仕様	29

# 安全上のご注意

けがや事故防止のため、以下の点は必ず守ってください

 <b>警告</b>		 <b>注意</b>	
 必ず守る	<p><b>施工・点検時には必ず主電源を切る</b> 電源が入ったままの施工は感電の原因になります。</p>	 必ず守る	<p><b>住宅分電盤のカバーはケーブルなどの挟み込みがないように注意し、確実に取り付ける</b> 守らないとカバーの落下によるけがのおそれがあります。</p>
 禁止	<p><b>分解や改造はしない</b> 感電・火災の原因になります。</p>	 禁止	<p><b>電源電圧は、定格外では使用しない</b> 電気事故の原因になります。</p>
 禁止	<p><b>LANケーブル差込口にはLANケーブル以外を接続しない</b> 守らないと感電・火災・故障の原因になります。</p>		

## マークについて

エコネットライト対応計測アダプタ（以下 計測アダプタ）は、「特定小電力無線局の無線設備（テレメーター用）」の技術基準に適合しています。製品に貼り付けられている表示（マーク）は、その証明マークです。表示マークの貼り付けられている製品は総務大臣の許可なしに改造して使用することはできません。**改造すると法律により罰せられることがあります。**

## 免責事項

- 本製品を課金目的の計量器としてご使用された場合。  
本製品と接続する計量器は省エネ目的の自主管理商品であり、計量法に定める指定機関が行う検定に合格した特定計量器ではありません。
- 本製品の故障により記憶されたデータが消失・破損した場合。
- 説明書で説明された以外の使い方により損害を生じた場合。
- お客様側でルーターや無線LANなどのセキュリティに関する設定を行っていないことにより損害を生じた場合。  
（第三者に通信を盗み見られたり、不正に侵入されるおそれがあります）
- 高い安全性が要求される用途として使用されたことにより損害を生じた場合。  
医療機器や人命に直接的または間接的に関わるシステムなどには使用できません。
- 当社の了承がなく日本国外で使用された場合。  
本製品は日本国内で使用されることを前提に設計・製造されています。  
外国為替および外国貿易法の規定により戦略物資など（または役務）に該当するものについては、当社の了承および日本国政府の輸出許可（または役務取引許可）がなく輸出はできません。
- 同周波数帯の機器の近くに設置すると干渉する場合がありますが、本機器は電波法に準拠しています。
- 遠隔出力制御について  
本製品は、2015年1月22日公布の再生可能エネルギー特別措置法施工令規則の一部を改正する省令と関連告示に対応した機器です。遠隔出力制御を行うためには、対応した以下の機器が必要です。
  - ・パワーコンディショナ(制御対応)、パワーステーション(制御対応)、パワーコンディショナRなど 注1)
  - ・出力制御ユニット(蓄電池ネットアダプタ、太陽光用ネットアダプタ、ネットリモコン、エコネットライト対応計測アダプタ、AiSEG2/AiSEG3 など)
 上記の遠隔出力制御対応機器およびルーターの電源は常に入れた状態でお使いください。電源を切ると、発電量が低下したり、パワーコンディショナが止まる、あるいは最新の出力制御スケジュールが取得できなくなる場合があります。また、電力会社によっては、インターネット接続を推奨しております。なお、インターネット回線をご準備いただく場合は下記の費用はお客様のご負担となります。
  - ・インターネット回路契約・利用に伴う費用など
 遠隔出力制御の内容につきましては、各電力会社のホームページをご覧ください。  
遠隔出力制御への対応のため、本製品のファームウェア(ソフトウェア)の更新や設置場所での作業(有償)が必要となる場合もあります。製品の対応詳細については、遠隔出力制御に関して各電力会社から発表された後に、当社ホームページにてお知らせ予定です。

注1) 本製品はパナソニック製蓄電システム\*1とは直接接続できません。ネットリモコン【別売品】や蓄電池ネットアダプタ(LJ-NA01)【別売品】などと接続してください。

## 本製品でできること

- 主幹 CT、特定 CT、分岐電流センサで計測した電流値と、電源端子（L1、N、L2）で計測した電圧値より電力計測をします。
- 本製品は、最大 43 回路まで分岐負荷の電力計測に対応しています。（住宅分電盤品種によって回路数は異なります。）また、特定 CT【別売品】の増設により、最大 8 回路までの電力計測の追加ができます。
- 過電流検知用 CT【別売品】と接続することで、過電流検知ができます。
- パルス発信器付ガスメーター・パルス発信式流量計との接続により、ガスや水の使用量を計測します。
- AiSEG3（7 型モニター機能付：MKN7140,MKN7141）、AiSEG3（MKN706）＜以下 AiSEG3＞、AiSEG2（7 型モニター機能付：MKN713）、AiSEG2（MKN704）、AiSEG2（集合住宅用：MKN705）＜以下 AiSEG2＞または、ECHONET Lite 規格に対応した HEMS コントローラと接続することで電力使用量の見える化など各種 HEMS 機能が活用できます。
- AiSEG2/AiSEG3に対応したELSEEV（電気自動車【EV・PHEV】充電設備）※1＜以下 ELSEEV＞の電気自動車計測設定および計測をして、AiSEG2/AiSEG3と接続することで、AiSEG2/AiSEG3・ELSEEVと連携した機能が活用できます。詳細は7ページ「【回路設定方法】詳細」およびAiSEG2/AiSEG3、ELSEEVの取扱説明書をご確認ください。  
AiSEG2/AiSEG3のピークアラーム/ピークコントロール機能を利用する場合は、過電流検知用CT【別売品】が必要です。
- 当社ホームページにおいて遠隔出力制御対応と記載されているパワーコンディショナ※1とAiSEG2/AiSEG3と接続することで、遠隔出力制御します。
- 本製品は、余剰買取方式、全量買取方式のどちらにも対応していますが、両方を同時に使用することはできません。ご使用時に、AiSEG2/AiSEG3 でどちらかの方式を選択してください。  
注 2) AiSEG2/AiSEG3 のファームウェア（本体）は、最新のファームウェアバージョンに更新してください。最新ではない場合、機能の一部が制限されることがあります。  
（更新方法は AiSEG2/AiSEG3 の取扱説明書をご確認ください）

## 取扱上のご注意

- 本製品で測定した電力（発電電力、買電電力、売電電力）は、測定点や測定方法が異なるため、パワーコンディショナで表示される電力や、電力会社からの明細書に記載されるご使用量、受給電力量（購入電力量）、金額、他の計測機器の計測値などとは一致せず、計測許容精度の範囲内になります。
- 使用電流が大きく歪む負荷機器などを測定する場合、計測許容精度の範囲外になり、正しく計測できない場合があります。
- 本製品では機能向上のためファームウェア更新を実施する場合があります。  
本製品のファームウェア更新の際、宅内インターネット経由でおよそ1～2 MB/回の通信パケットが発生します。（通信パケット料金はお客さまご負担となります）  
通信状況によってファームウェア更新に失敗する場合がありますが、25時間以内に再度更新を行います。
- 「全量買取方式」でご使用の場合は、売電メータ系統と買電メータ系統が同一トランス配下の系統であることをご確認ください。
- 本製品では発電機器計測の場合は、単相 2 線式発電のみ計測可能です。単相 3 線式（100/200 V）の発電計測には対応しておりません。  
単相 2 線式発電については、外部発電機器（「ガス発電」「燃料電池」など）※1は100 V、200 Vのどちらか、
- 太陽光発電機器※1は200 V系のみが計測可能です。  
太陽光発電機器、外部発電機器（「ガス発電」「燃料電池」など）、別盤の蓄熱暖房器※1、単相3線負荷などの回路があり、回路構成を変更する場合は、計測対象に合わせて回路設定が必要です。  
※1Cモジュールの負荷回路は、電圧自動設定（At）機能により設定は不要です。  
詳細は12ページ「手順6 回路設定」をご確認ください。  
AiSEG2/AiSEG3とは無線で通信することができますが、マンションなどの集合住宅にお住まいの場合は有線LANで通信することを推奨します。  
その他の本製品に対応したHEMSコントローラとは有線LANで接続してください。  
HEMSコントローラは各社ごとに仕様異なります。機能や接続方法など詳細は各社ホームページや取扱説明書で事前にご確認ください。  
遠隔出力制御が開始された場合、本製品とパワーコンディショナ間の接続やモニター間の通信が途絶えるとパワーコンディショナの動作が停止します。  
説明書に記載されていない使用方法、環境などで使用された場合、パワーコンディショナが一定期間動作停止し、モニター上に通信異常が表示されることがあります。  
計測可能範囲、計測タイミングの違い、および未設定の外部発電機器があることなどで、分岐で計測した電力の合計が主幹で計測した電力と一致しない場合があります。  
本製品を複数のHEMSコントローラに登録しないでください。正常に動作しなくなる場合があります。  
※1 AiSEG3 対応商品についてはホームページをご参照ください。 <https://www2.panasonic.biz/jp/densetsu/aiseg3/>

## 施工上のご注意

- 本製品は、屋内で使用してください。屋外や水のかかる場所、湿気の多い場所、結露する場所には施工しないでください。
- 本製品を「全量買取方式」でご使用の場合は、21 ページ「配線例③」を参考に全量買取制度にしたがった施工をしてください。
- 本製品は、個別にCT2つまで太陽光発電設定が可能です。（設定に外部発電がある場合や、AiSEG2/AiSEG3側にパナソニック製蓄電システム<sup>※1</sup>や他社製蓄電システム<sup>※1</sup>が接続されている場合は1つのみ）複数のパワーコンディショナがある場合は、配線が1系統にまとめられた個所を計測するようにCTを施工してください。  
※ 配線径、定格値がCTの仕様内に収まるように施工してください。
- 「単相3線負荷計測」に設定した特定5、6は、「特定CT分割形（150A）MKN73BCT150【別売品】」を取り付けてください。
- 各種信号線（主幹CTケーブル、特定CTケーブル、パワーコンディショナ接続線、ガス・水道パルスメータ接続線、LANケーブル）は電力線と並走して配線しないよう離して施工してください。（ノイズの影響を受けます）各種信号線の接続方法を間違えると機器の故障や不動作の原因になりますので、接続方法を確認の上実施してください。
- CTの相・極性、電圧変更など、施工状態を変更した際は計測アダプタを再起動してください。
- 下記のような使用環境では、電波（ノイズ）を受けたり電波の到達距離が短くなります。このような場合は、動作しないことがありますのでご注意ください。
  - ・機器間に金属や鉄筋コンクリートなどの電波を通しにくい障壁がある。
  - ・機器間にある壁面内の断熱材にアルミ箔を貼付けたグラスウールを使用している。
  - ・機器の周辺が金属物で囲まれている。（スチールキャビネットの間、カラオケボックスなど）
  - ・金属物の壁面に機器を取り付けている。
  - ・操作する人の体の向きで電波を遮っている。
  - ・電子レンジやパソコンなどの家電商品やOA機器が機器の2 m以内にある。
  - ・機器の近くで、直流電圧で駆動するベルやモーターなどの機器が動作している。
  - ・機器の近くで、携帯電話を使用している。
  - ・機器の近く（10 m以内）で、マイクロ波治療器を使用している。
  - ・近くにテレビ・ラジオの送信所近辺の強電界地域または各種無線局がある。  
（本製品をテレビ・ラジオなどの受信機に近接して使用したり、ケーブルテレビやCS/BSチューナーと周波数が干渉すると受信障害を引き起こすことがあります）
- 到達範囲内でも電波が弱くなるポイントがありますのでご注意ください。
- 本製品とAiSEG2/AiSEG3との電波到達距離は、障害物のない場所での水平見通し距離 約100 mです。
- 当社の小電力型ワイヤレス製品（住まいるサポ・ワイヤレス受信機・発信器・ワイヤレス連動型住宅用火災警報器・ワイヤレススイッチなど）は2 m以上離してください。  
守らないと電波ノイズを受けたり電波の到達距離が短くなります。
- 線間の絶縁抵抗測定は行わないでください。（故障の原因になります）
- 本製品をLANケーブルでAiSEG2/AiSEG3やHEMSコントローラと接続する場合、別途ルーター【市販品】<sup>※1</sup>が必要です。
- LANケーブル差込口または接続しているLANケーブルのモジュラープラグの端子に触れたり、帯電したものを近づけたりしないでください。静電気による故障の原因になります。
- 本製品に数種類の遠隔出力制御対応パワーコンディショナを混在して接続する場合、終端のパワーコンディショナから計測アダプタまでを同一通信方式（MODBUS通信など）で統一して施工して、正しくアドレス設定する必要があります。 ※ 機器が正しく認識されません。  
詳細は10ページ「手順4.太陽光パワーコンディショナの接続設定」および、パワーコンディショナの説明書をご確認ください。
- パワーコンディショナの遠隔監視サービスをご利用の場合は、MODBUS通信で接続してください。

※1 AiSEG3 対応商品についてはホームページをご参照ください。 <https://www2.panasonic.biz/jp/densetsu/aiseg3/>

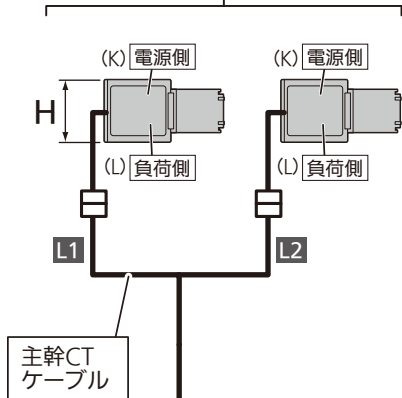
# 各部のなまえとはたらき

※オプション品の各品番はカタログを参照してください。

主幹 CT

売電力と買電力を計測

CT (主幹用) 分割形  
44.5×36.7 mm (外形)  
23 mm (高さ H)  
φ15.5 (内径) 電線 最大38 mm<sup>2</sup>



## オプション 【別売品】

特定 CT

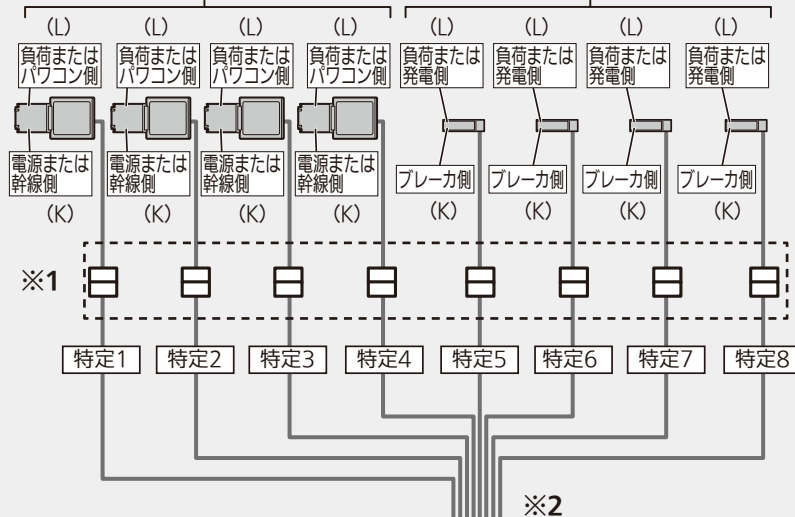
- ・特定CTは分岐ブレーカ以外の回路を計測する際に使用します。
- ・特定1~4に特定5~8用CT (30 A) 貫通形を接続しないでください。
- ・特定5~8に特定1~4用CT (150 A) 分割形を接続しないでください。

特定 1 ~ 4 の電力を計測

CT (150 A) 特定1~4用分割形  
44.5×36.7 mm (外形)  
23 mm (高さ H)  
φ15.5 (内径) 電線 最大38 mm<sup>2</sup>

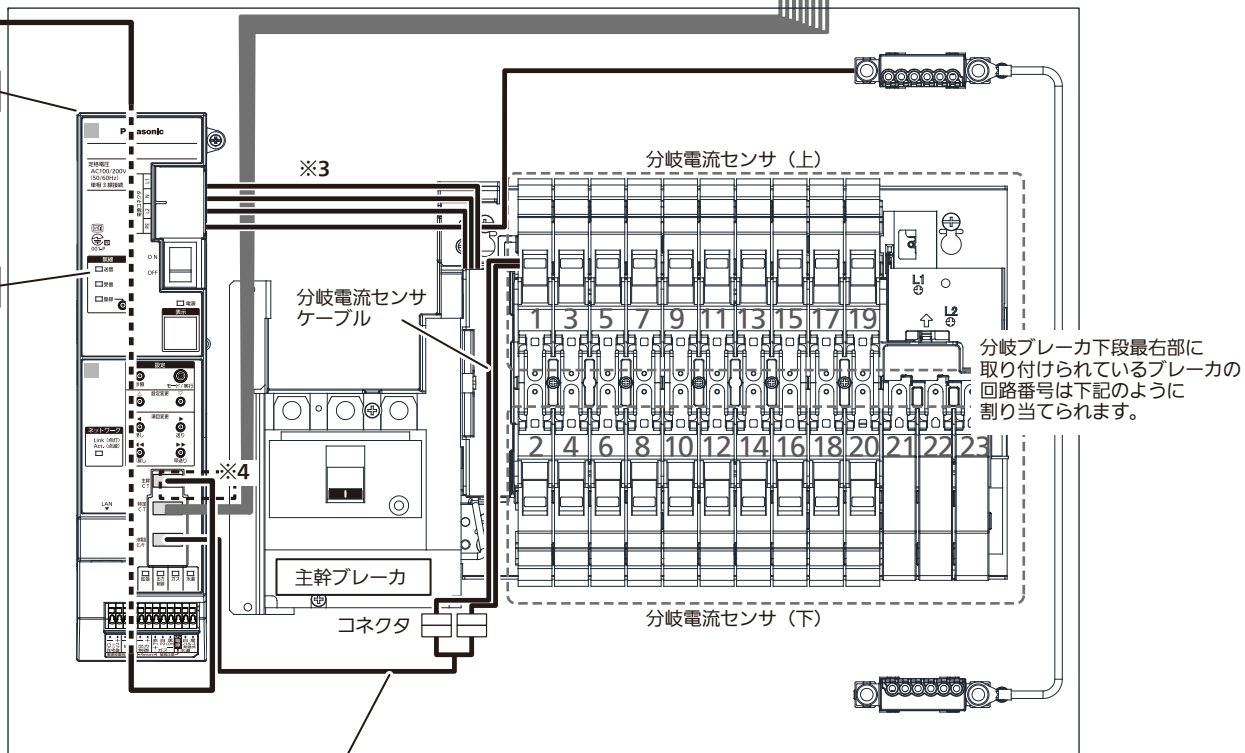
特定 5 ~ 8 の電力を計測

CT (30 A) 特定5~8用貫通形  
φ17.5 (外径)  
φ5.3 (内径)  
電線 最大VVFケーブルφ2.6



アダプタホルダ

計測アダプタ



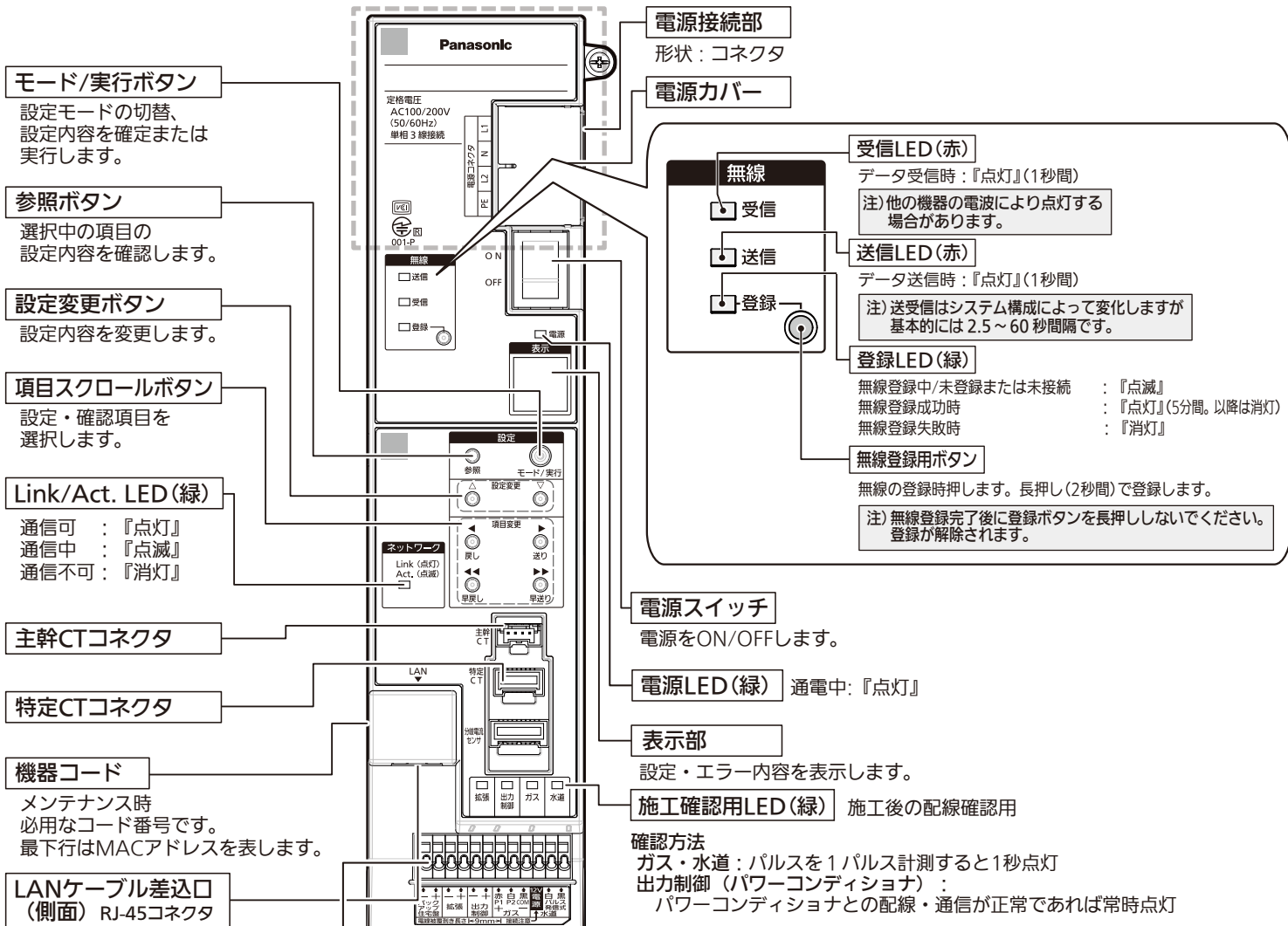
※5 分岐電流センサ中継ケーブル

## オプション 【別売品】

- ※1 特定 CT 延長ケーブル
- ※2 特定 CT ケーブル (8 回路用) (25 cm)
- ※3 エコネットライト対応  
計測アダプタ電源ケーブル (MKN7350S1用)
- ※4 主幹 CT 延長ケーブル
- ※5 分岐電流センサ中継ケーブル

# 各部のなまえとはたらき

## 【計測アダプタ】



**通信線接続端子**

- ・パルス発信付ガスメーター(ガスパルス)  
推奨入力幅  
on : 40 ms以上  
off : 40 ms以上 (無電圧接点)
- ・パルス発信式流量計(水道パルス)  
推奨入力幅  
on : 40 ms以上  
off : 40 ms以上 (無電圧接点) ※ 接続は2線式です。
- ・パワーコンディショナ(出力制御)  
※ 各種接続電線の適用電線・長さは29ページ「仕様」をご参照ください。  
「出力制御(または太陽光発電)」端子に接続してください。

■ 表示設定項目・内容一覧 (未使用設定は使用しないでください)

設定項目	表示記号	設定内容	表示記号
分岐電流センサ	01~43	1Cモジュール(100 V)	1V
		1Cモジュール(200 V)	2V
		2Cモジュール(200 V)	2C
		3Cモジュール(200 V)	3C
特定CT	C1~C8	SHN型ブレーカ(100 V)	n1
		SHN型ブレーカ(200 V)	n2
		電気自動車(1Cモジュール 200 V)	E1
		電気自動車(3Cモジュール 200 V)	E3
		エコキュート	EC
		太陽光1	P1
		太陽光2/外部発電(200 V/100 V)	P2/ot/o1※6
		未計測	oF
		電圧自動設定	At ※7
		100 V負荷	1V (L1・L2)※6
200 V負荷	2V		
電気自動車(200 V)	EV		
リミッター	C1~C4	別盤加算(蓄熱暖房)	Ad
		単相3線負荷	3V
ピークアラーム	Lt	無し/有り	oF/on
水パルスレート	PA	無し~100 A	oF~10
ガスパルスレート	Vt	0.1~1,000 ℓ//パルス	1~^3
DHCPモード変更	GA	1~1,000 ℓ//パルス	1~^3
システム情報	dH	モード1/モード2	d1/d2
設定クリア	Cr	機器バージョン	u1~u5
		パワコン台数	d1~d7
		パワコン情報クリア	Pd
		メンテナンス用	PS (未使用)
電圧自動設定クリア	Cd		
設定情報全クリア	AL		
キャンセル	oF		

※6 分岐電流センサの場合:外部発電(100 V)「o1」は、計測している電圧相に応じて1Cモジュール(100 V)「1C」、3Cモジュール(100 V)「3C」の設定が必要です。分岐電流センサ(上)はL1相を、分岐電流センサ(下)はL2相を計測するよう施工してください。  
 特定CTの場合:外部発電(100 V)「o1」、100 V負荷「1V」は、計測している電圧相に応じてL1相(100 V)「L1」、L2相(100 V)「L2」の設定が必要です。  
 ※7 電圧自動設定「At」は、100 V(1V)、200 V(2V)を自動で設定します。

# 施工方法

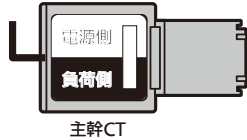
「施工チェックシート」を完成の上、以下の手順で施工を行ってください。

## 手順1 CT（電流センサ）の取付け

① 主幹CTを売電と買電を計測できる位置のL1相・L2相に取り付けます。  
 (19ページからの「**配線例**」を参照し、売電電力も計測できる位置に取り付けてください)  
 取付け位置が異なると、正しい計測ができません。

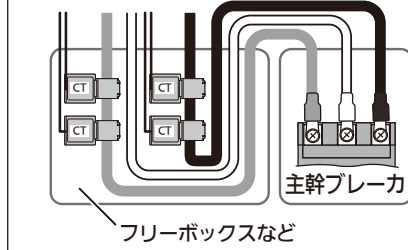
● 主幹CTを設置する場所と売電メーター間に  
 分岐線が無い箇所に施工してください。  
 電力量が正しく計測できません。

● CTケーブルにはL1側・L2側が  
 あります。  
 CTケーブル表示を確認して  
 取り付けてください。

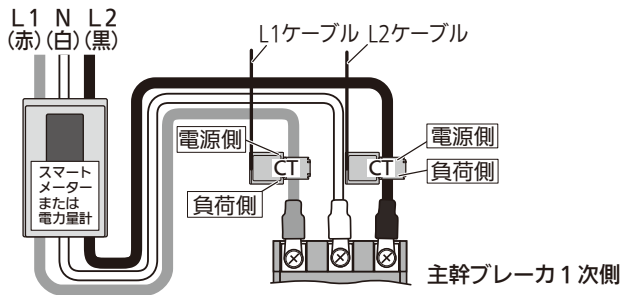


● CTには極性があります。  
 電線にCTを取り付ける際、CT本体  
 ラベル表示の「電源側」が  
 電力メーター側になるように  
 してください。

※ 同一箇所に複数個のCTを接続しても計測値には影響ありません。



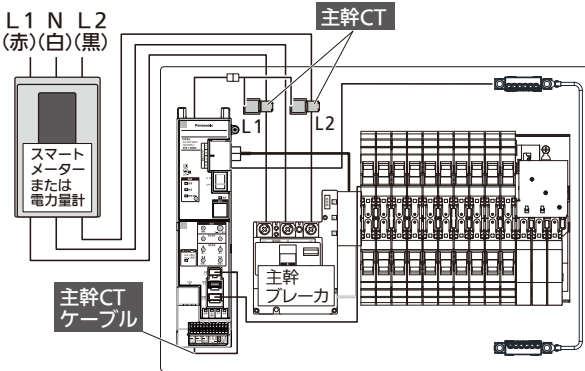
注1) CTが振動して音が発生  
 する場合がありますので、  
 CT同士が接触しないよう  
 に固定してください。  
 注2) 複数個接続時、スペースが  
 ない場合はフリーボックス  
 などを設けてください。



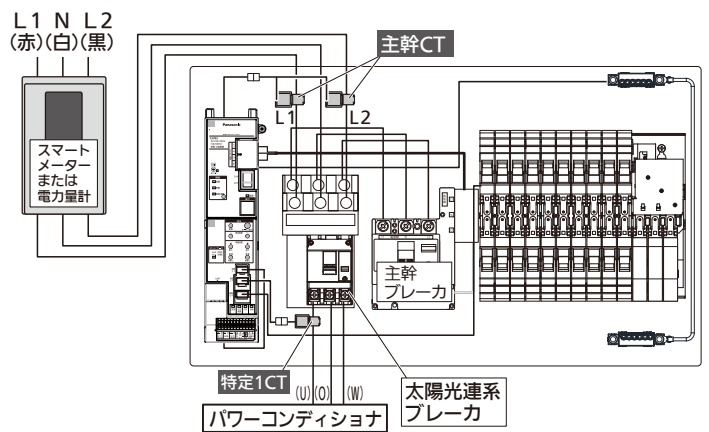
※ 主幹CTは分割形です。電線を端子に接続した後も取付け可能です。

注) CTとブレーカの圧着端子は、十分に距離をとって施工してください。  
 (短絡などの危険があるため)  
 CTを取り付ける際は、CTの嵌合面にゴミ、ほこりなどの異物が  
 付着しないようご注意ください。(計測精度に影響します)

### 例 1



### 例 2



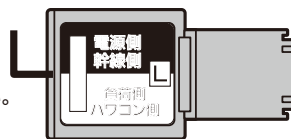
## オプション (特定CTをご購入の方のみの手順)

② 特定CT (150 A) で太陽光を測定する場合には、特定1を使用して太陽光連系ブレーカの  
 パワーコンディショナ側電線 (L1相) に取り付けます。  
 (太陽光連系ブレーカが分岐回路以外に設置されている場合など測定対象回路に応じて取り付けてください)

### 【負荷計測の場合】

● CTは、200 Vの場合はL1相に、  
 100 Vの場合はL1相またはL2相に取り付けてください。

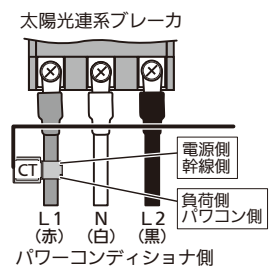
● CTには極性があります。  
 電線にCTを取り付ける際、CT本体ラベル表示の  
 「電源側 幹線側」がブレーカ側に  
 なるようにしてください。



CT (150 A / 特定1~4用)



CT (30 A / 特定5~8用)



※ 蓄電システムはCTで計測しないようにしてください。

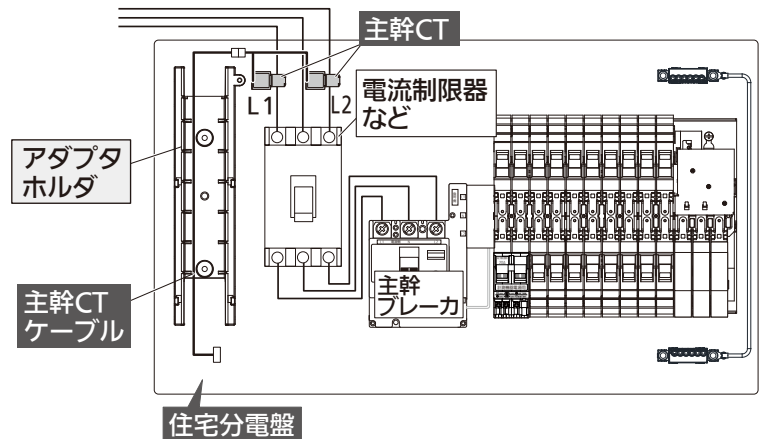
※ 単相3線負荷計測する場合は、【別売品】CT (150 A / 特定1~4用) を使用して、特定5~6に取り付けてください。

# 施工方法

## 手順2 CTケーブルの取付け

### ■ 主幹 CT ケーブルの取付け

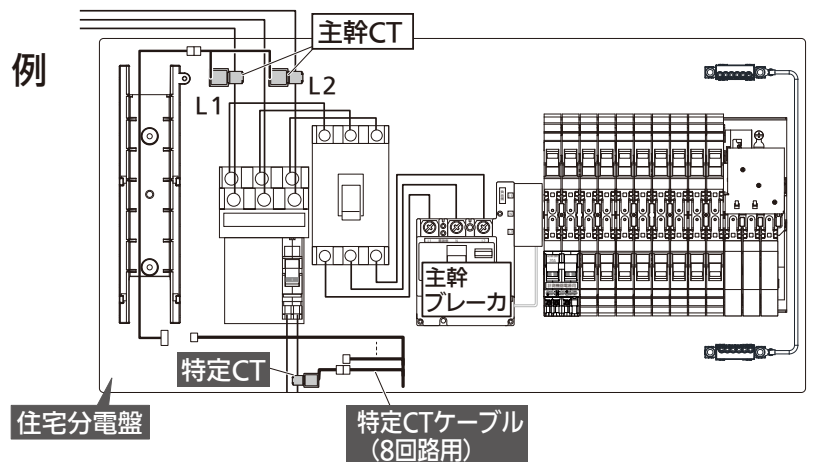
- ① 計測アダプタに主幹 CT ケーブルを接続してください。  
(ケーブルはアダプタホルダを通してください)
- ② 主幹 CT ケーブルに L1/L2 が正しく接続できるように主幹 CT を接続してください。
- ③ 余った CT ケーブルはアダプタホルダ内に収納してください。



### オプション (特定CTをご購入の方のみの手順)

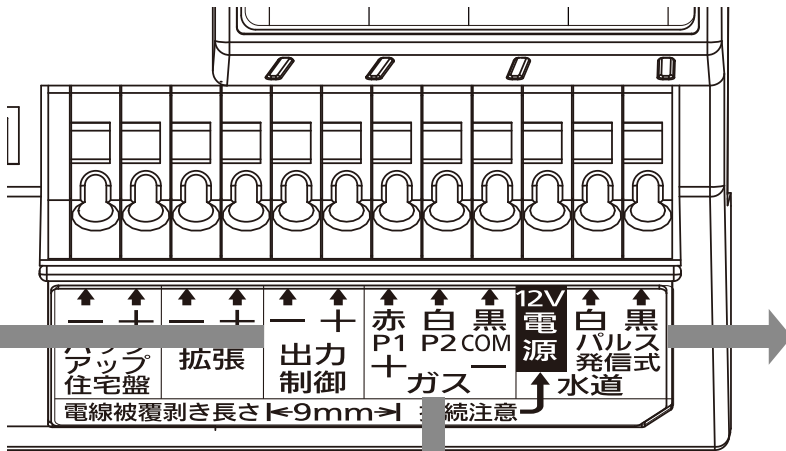
### ■ 特定 CT ケーブル (8 回路用) の取付け

- ① 計測アダプタに特定 CT ケーブル (8 回路用) のコネクタを接続して、特定 CT と接続してください。
- ② CT ケーブル長が足りない場合は、特定 CT 延長ケーブル【別売品】を接続してください。



## 手順3 通信線の接続

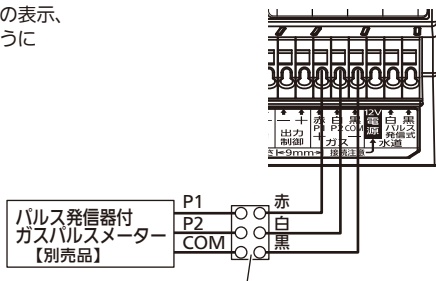
※ 図にしたがい、正しく接続してください。  
接続を間違えると、動作不良や機器が破損する場合があります。



### ガス (パルスメーター)

※ ガスパルスメーターの表示、または線色が合うように接続してください。

表示	線色
P1	赤
P2	白
COM	黒

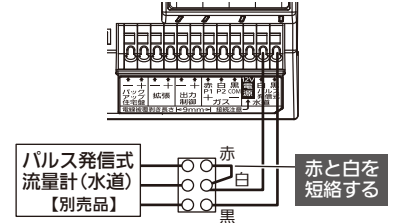


2線式の場合は、赤と黒に接続(白は未接続)

ガス・水道パルスメーター接続線：VCTF線 0.5 mm<sup>2</sup> ~ 0.75 mm<sup>2</sup>  
またはFCPEV線またはAE線 φ0.65 ~ 0.9, 50 mまで。

### 水道 (パルス流量計)

(パルス発信式流量計の場合)

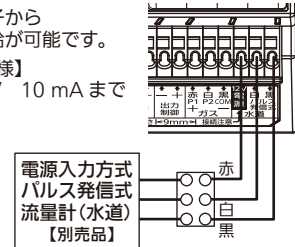


※ パルス発信式流量計が3線式の場合は必ず2線式に変更し、結線してください。  
※ 流量計への電源供給は不要です。誤って結線されると機器故障の原因になりますので、ご注意ください。

(電源が必要なパルス発信式流量計の場合)

接続端子から電源供給が可能です。

【電源仕様】  
DC12V 10 mAまで



(オープンドレイン出力式のパルス発信式流量計の場合)

流量計	端子の表示
赤 +	白
緑 -	黒

### パワーコンディショナ (遠隔出力制御・遠隔監視サービス対応)

【パワーコンディショナ側の接続端子が速結端子形状の場合 (MODBUS通信)】

遠隔出力制御や遠隔監視サービスに対応します。

FCPEVケーブル【別売品】を用いて接続してください。



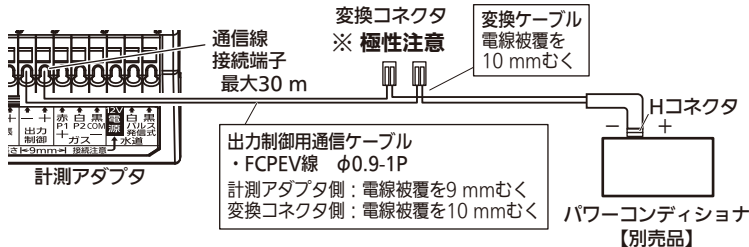
※ 接続端子名は、機種により「太陽光発電」と表示されています。

設定方法など詳細は、パワーコンディショナの説明書をご参照ください。

【パワーコンディショナ側の接続端子がコネクタ形状の場合】

遠隔出力制御に対応します。

パワコン変換ケーブルセット【別売品】を用いて接続してください。



【変換コネクタ接続方法】

- ① レバーを押し上げる。
- ② 電線を突き当たるまで差し込む。電線
- ③ レバーを押し下げる。



電線を軽く引っ張り、線が抜けないことを確認ください。

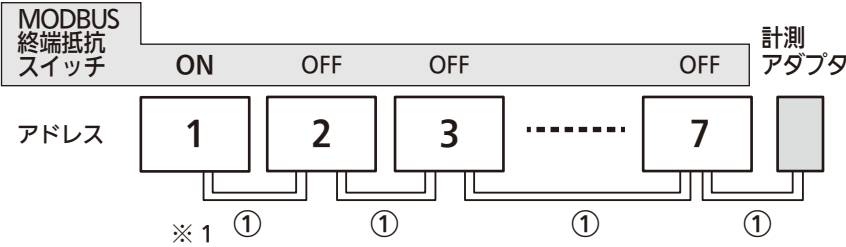
# 施工方法

## 手順4 太陽光パワーコンディショナの接続設定（遠隔出力制御・遠隔監視サービス用の通信線接続）

複数台のパワーコンディショナを接続する場合は、パワーコンディショナ側でアドレス設定および終端抵抗スイッチの設定が必要になります。設定方法などはパワーコンディショナの種類によって異なりますので、接続先のパワーコンディショナの説明書をご参照ください。パワーコンディショナは機種によって最大7台まで接続可能です。アドレス設定は台数に応じて1～7で設定してください。  
 ※ 本製品はパナソニック製蓄電システムとは直接接続できません。ネットリモコン【別売品】や蓄電池ネットアダプタ (LJ-NA01)【別売品】などと接続してください。

### MODBUS通信で接続する場合の接続設定例

#### ● パワーコンディショナ：1・2・3・・・7 台設置の場合

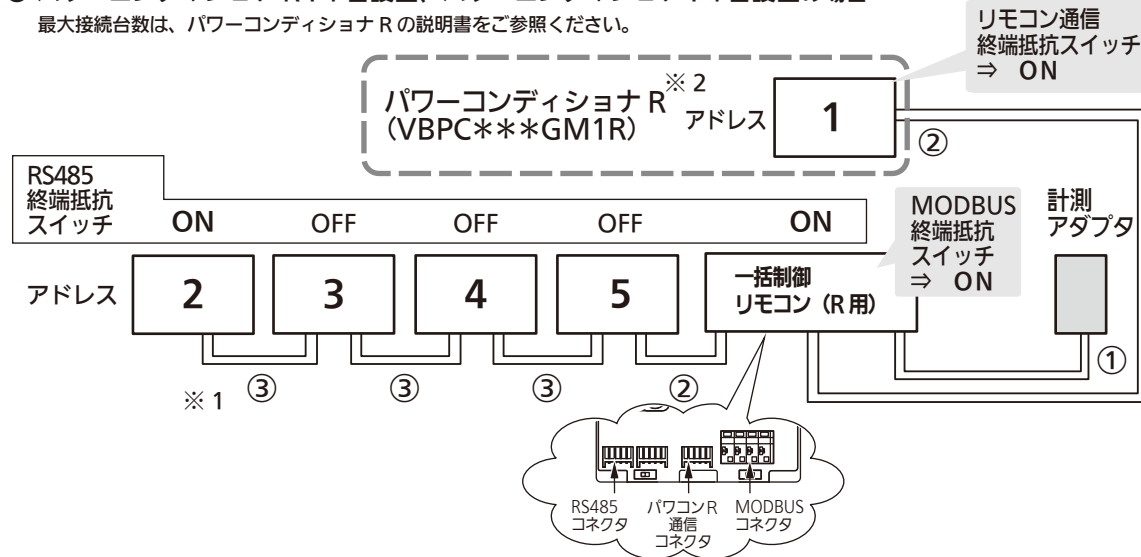


- ※ 1 接続線は下記を使用してください。
  - ① FCPEV線 φ0.9-1P（現地調達品）
  - ② パワコン・リモコン間ケーブル（別売品）
  - ③ パワコン間ケーブル（別売品）
- ※ 2 一括制御リモコン（R用）でパワーコンディショナRの「システム設定」の変更が必要です。
- ※ 3 サービススイッチは1～5台接続の時は1番、6～7台接続の時は2番に設定ください。
- ※ 4 MODBUS通信に対応していないパワーコンディショナの場合：
  - ・パワコン変換ケーブルセットを使用し、RS485通信で計測アダプタと接続してください。（接続端子がコネクタ形状です。9ページ「手順3」参照）
  - ・RS485終端抵抗スイッチを「OFF」にしてください。

### パワーコンディショナR（蓄電池システム無し）と接続する場合の接続設定例

#### ● パワーコンディショナR：1 台設置、パワーコンディショナ：4 台設置の場合

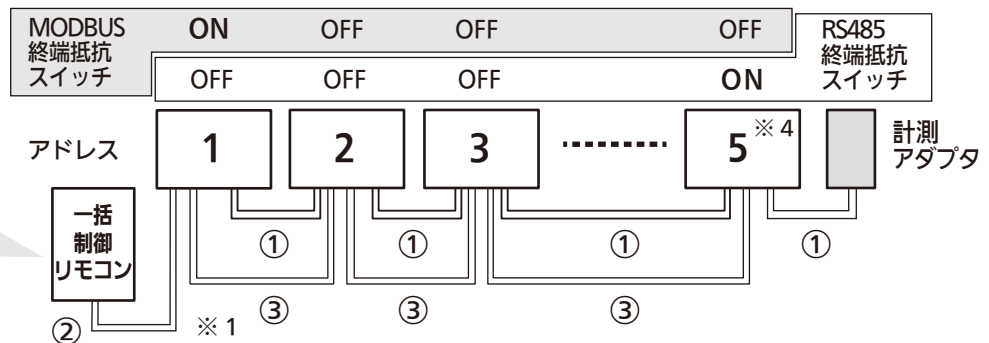
最大接続台数は、パワーコンディショナRの説明書をご参照ください。



### 一括制御リモコンを接続する場合の接続設定例

#### ● パワーコンディショナ：1・2・3・・・5 台設置の場合

サービススイッチ ⇒ 1  
 （終端抵抗スイッチ ⇒ ON）



# 施工方法

## 手順5 施工確認

**スマートメーターまたは電力量計**  
L1 N L2 (赤)(白)(黒)

**計測アダプタ**

**主幹CT**

**主幹ブレーカ**

**特定1CT**

**パワーコンディショナ**

**表示**

**チェック①**  
計測アダプタの電源スイッチをONしてください。  
(電源LEDが点灯すれば、電圧が印加されています)

**識別コード**  
8A

**チェック②**  
表示部が「8A」点灯後、表示部右下のLED状態をご確認ください。  
点灯：L1,L2の主幹CTが両方とも売電電力（-）を計測している。  
点滅：L1,L2の主幹CTが片方売電電力（-）、片方買電電力（+）を計測している。  
例 電力使用量と発電量が均衡している  
消灯：L1,L2の主幹CTが両方とも買電電力（+）を計測している。  
LEDの表示状態と主幹電力の売電/買電が一致しているかご確認ください。  
(もし一致していない場合、主幹CTの取付け位置、方向が間違っている場合があります。特に、主幹CTの片方の取付方向が間違っている場合は点滅状態になります)

**チェック③**  
特定CTのラベルと特定CTの取付け位置、方向が合致していることをご確認ください。

**施工確認用LED**

拡張	出力制御	ガス	水道
パルス発振式流量計	パルス発振式流量計	パルス発振式流量計	パルス発振式流量計
赤 P1	白 P2	黒 COM	12V 電源
白 P1	黒 P2	黒 COM	白 発振式
黒 P1	白 P2	黒 COM	黒 発振式
白 P1	黒 P2	黒 COM	白 水道
黒 P1	白 P2	黒 COM	黒 水道

電線被覆剥き長さ ≧9mm ≧ 接続注意

**チェック④**  
通信線接続端子の+が正しく接続されているかご確認ください。  
(正しく接続されている場合、施工確認用LEDが点灯/点滅します)  
・パルス発振式流量計（水道、ガス）：パルス計測すると1秒間点灯  
・パワーコンディショナ（出力制御）：通信時点灯（接続後、1～2分かかります）  
● 接続するパワーコンディショナの極性とあわせて接続ください。  
● 通信端子と正しく接続されていない場合、発電できない可能性があります。  
● パワーコンディショナの接続台数はAiSEG2/AiSEG3のモニターか13ページ【回路設定方法】詳細のパワーコンディショナ接続情報（d1～d7）の表示から確認できます。

# 施工方法

## 手順6 回路設定

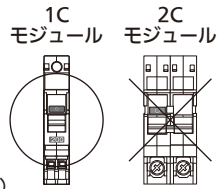
出荷時、回路は設定済みです。施工チェックシートに、設定値を記載しています。  
ただし、購入後に回路構成を変更する（太陽光発電・外部発電機器の追加など）場合は、計測対象に合わせて手で設定を行う必要があります。

回路設定を手動で行う場合は、下記『補足説明』をご参照ください。

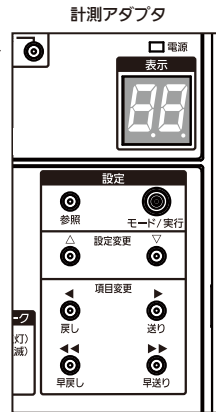


### 電圧自動設定 (At) について

- 計測回路の電圧 (100 V/200 V) を自動で判定します。100 V/200 V 回路を計測する場合、電圧自動設定 (At) からの設定変更は不要です。
- 接続している負荷機器を動作させてください。動作後、5 ~ 10 分で自動設定されます。
- 以下の場合は、電圧自動設定 (At) できません。手動で設定してください。
  - 1V, 2V 以外の電圧設定の場合
  - 1C モジュール以外のモジュールの場合
  - 蓄電システムを利用している場合
  - 設定が、間違っている場合
  - 特殊回路 (エコキュート、EV 充電器、太陽光回路など) を計測する場合
- また、以下のような条件下では正しく計測されず設定できないことがあります。自動設定できない場合は、手動で設定してください。
  - 複数の負荷機器が同時に動作している場合 (ON-OFF を繰り返している等)
  - 施工状態を変更した場合 (CT の相・極性、電圧変更等)
  - 本製品で計測していない機器が変動している場合 (通信で電力を取得している等)

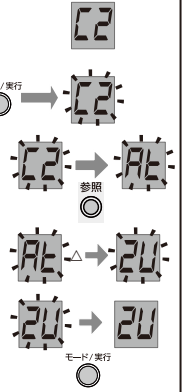


【手動で設定する場合】



【例】特定2CT回路を電圧自動設定から負荷200 Vへ変更する場合

- 「▶」または「▶▶」ボタンで表示を「C2」にする。
- 「モード/実行」ボタンを長押し (2秒) する。  
(表示が点灯から点滅に変わる)
- 「参照」ボタンを押す。  
(「C2」⇒「At」に変わる)
- 「△」ボタンを押す。  
(「At」⇒「2V」に変わる)
- 「モード/実行」ボタンを長押し (2秒) する。  
(表示が点滅から点灯に変わる)  
⇒設定完了  
※ 表示は約1分後に消えます。

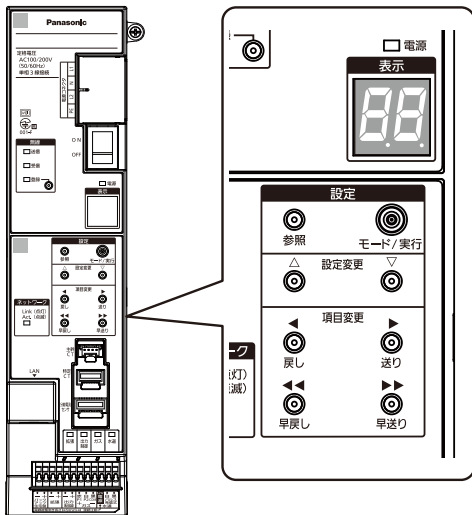


## 『補足説明』〔手順6の詳細〕

### 回路設定方法

**概要** ※ 設定モードで各種設定を行います。参照モードで設定内容が確認できます。

計測アダプタ



#### 設定モード 設定変更と実行



- 「◀◀」「◀」「▶」「▶▶」いずれかのボタンを押すと、項目が表示されます。
- 「モード/実行」ボタンを長押し (2秒) すると、項目が点灯⇒点滅になります。(変更可能モード)
- 「参照」・「▽」・「△」ボタンを押し、設定項目を変更します。(詳細は次ページ参照)
- 「モード/実行」ボタンを長押し (2秒) すると、項目が点滅⇒点灯になり変更内容が確定されます。

#### 参照モード 設定内容の確認



- 「◀◀」「◀」「▶」「▶▶」いずれかのボタンを押すと、項目が表示されます。
- 「▶」ボタンを押すと、表示が切り替わり「参照」ボタンを押すと設定内容が確認できます。

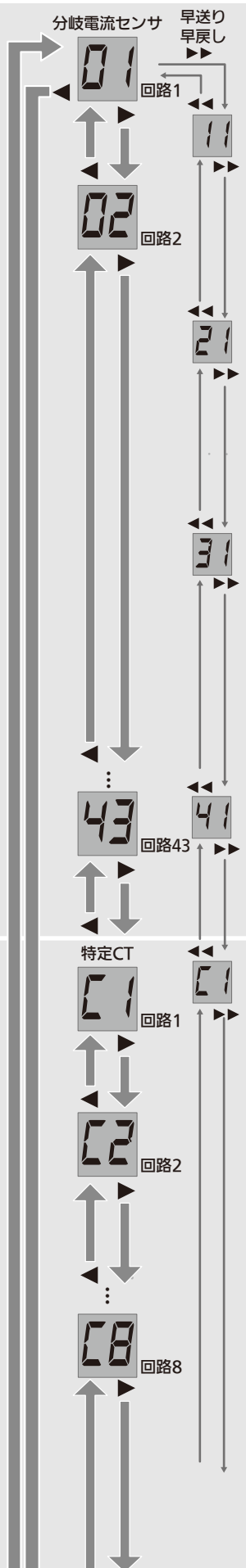
※ 表示は無操作状態が約1分続くと消えます。〔エラーがある場合は、エラー表示します(27ページ参照)〕

# 施工方法

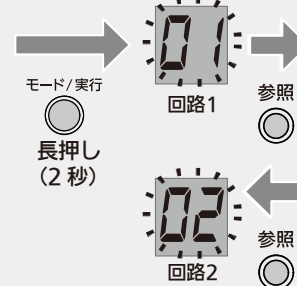
**詳細** 分岐電流センサ、特定1~8CTで計測する負荷の設定や有線LAN接続時のDHCPモード設定などを行います。

## 設定項目

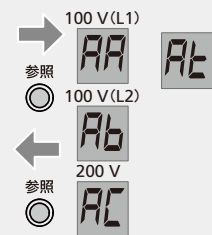
## 設定内容 [「モード/実行」ボタンの長押し(2秒)で設定内容を実行します]



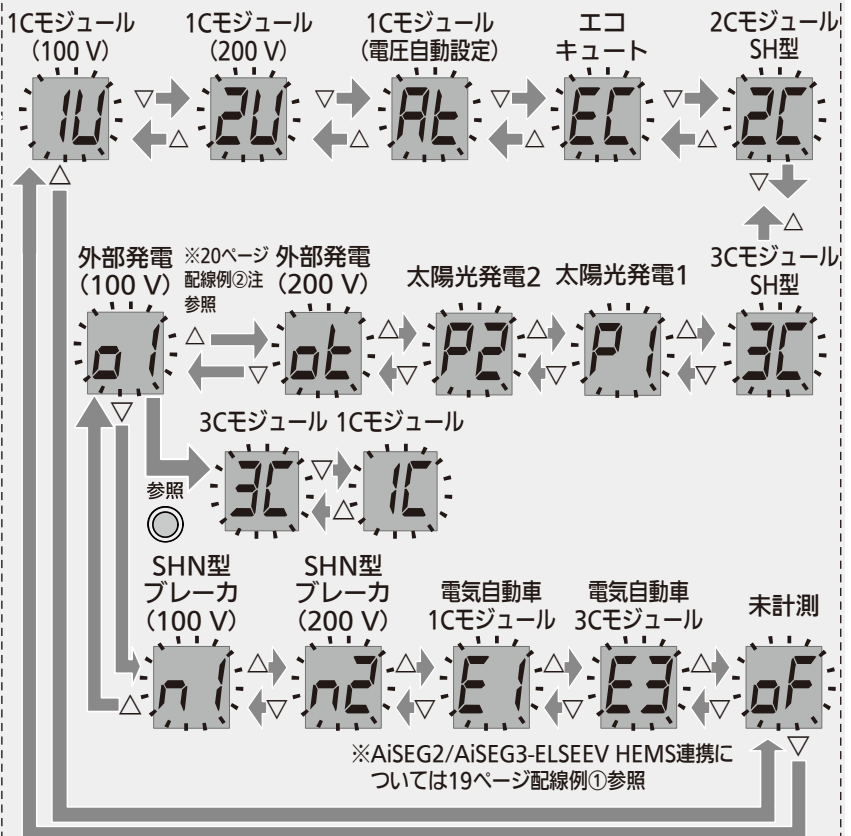
各分岐回路で計測する負荷または発電機器を設定します。



電圧自動設定した回路を参照すると、現在の電圧設定として認識しているか表示されます。

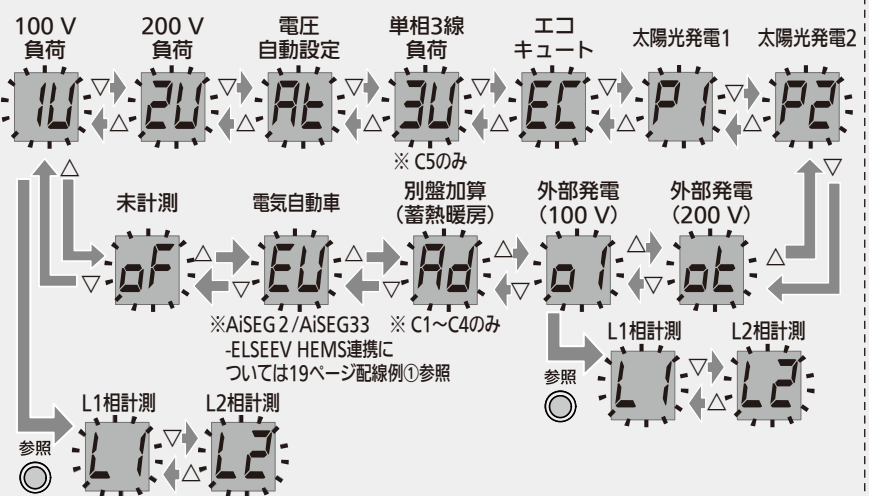
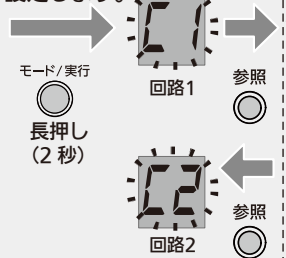


- ※ 電圧自動設定 (At) について
- 計測回路の電圧 (100 V/200 V) を自動で判定します。
  - 100 V/200 V 回路を計測する場合、電圧自動設定 (At) からの設定変更は不要です。
  - ただし、特殊回路 (エコキユート、EV 充電器、太陽光回路など) を計測する場合は設定変更が必要です。
  - また、分岐電流センサでは 1C モジュール以外の計測においても設定変更が必要です。
  - 参照状態では現在の設定値を表示します。(初期値は「AA」または「Ab」)
  - 「AA」: L1 相 100 V 負荷、「Ab」: L2 相 100 V 負荷、「AC」: 200 V 負荷
  - 自動設定完了するまでは 100 V (1 V) で計測します。



- ※ ご注意
- 「n1」「n2」は 100、200 V 併用接地コンセントで使用される負荷の電圧に応じて設定ください。
  - 単相 3 線など 100、200 V の両方は計測できません。
  - 「2C」「3C」「P1」「P2」「ot」「o1」「o1\_3C」「n1」「n2」「E3」は複数回路のブレーカです。左端のブレーカに設定してください。
- 例 (「P1」設定):
- 回路6 回路8 回路10
- 変更可 変更不可
- 1C モジュール 2C モジュール

特定CTで計測する負荷または発電機器を設定します。

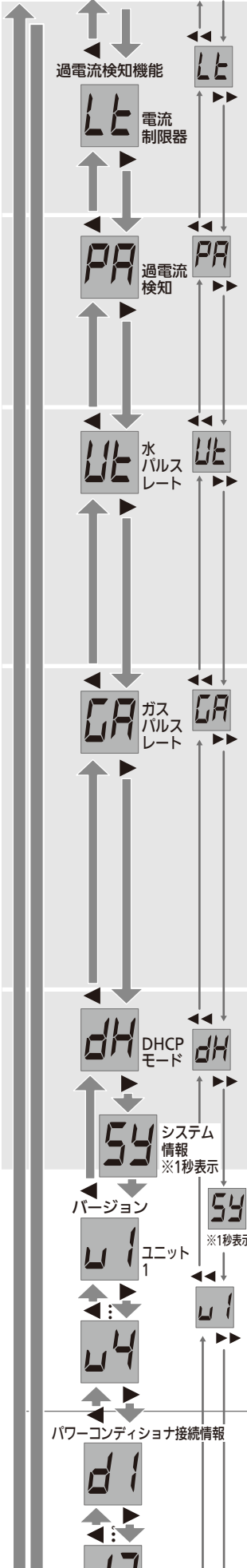


- ※ ご注意
- 全量買取方式の場合、特定1CTを「P1」に設定してください。上記以外の設定を行った場合は、全量買取方式での計測はできません。
  - 「EC」「P1」「P2」「ot」「o1」「Ad」「EV」「3V」はそれぞれ1回路ずつしか設定できません。
  - 「P2」「ot」「o1」はいずれか1つしか設定できません。
  - 「Ad」で計測した特定CTの値は、主幹CTで計測した値に合算されます。(特定CTの計測値は個別にも表示されます)
  - 「EV」「E1」「E3」はいずれか1つしか設定できません。
  - 「3V」設定した場合は、特定6CTの設定は-と表示され、単相3線負荷以外の用途では使用できません。
  - 「PA」設定が有効の場合は、特定7・8CTの設定は-と表示され、過電流検知以外の用途では使用できません。

次ページへつづく

# 施工方法

前ページのつづき



**電流制限器の有無を設定します。**

なし → 有り

モード/実行 (長押し 2秒) → 参照

※ 過電流検知機能を使用する場合  
 ・電流制限器ありの場合、電流制限器の定格電流値と同じ値に設定します。  
 ・電流制限器なしの場合、主幹ブレーカの定格電流と同じ値に設定します。  
 ただし契約用しや断器（電力量契約用しや断器）がありかつ、その定格電流が主幹ブレーカよりも定格電流値が小さい場合は、契約用しや断器の定格電流値と同じ値に設定してください。  
 ※ 電流制限器（リミッター）は契約用しや断器（電力量契約ブレーカ）とは異なるものです。  
 ※ 過電流検知用CT（別売品）が必要です。

**過電流検知機能を設定します。**

無効 → 20 A → 30 A → 40 A → 50 A → 60 A → 75 A → 100 A

モード/実行 (長押し 2秒) → 参照

※ 水パルスレート

**水パルスレートを設定します。**

1 ℓ/パルス (0.001 m³/パルス) → 10 ℓ/パルス (0.01 m³/パルス) → 100 ℓ/パルス (0.1 m³/パルス) → 1,000 ℓ/パルス (1 m³/パルス) → 0.1 ℓ/パルス (0.0001 m³/パルス)

モード/実行 (長押し 2秒) → 参照

ガスパルスレート

**ガスパルスレートを設定します。**

10 ℓ/パルス (0.01 m³/パルス) → 100 ℓ/パルス (0.1 m³/パルス) → 1,000 ℓ/パルス (1 m³/パルス) → 1 ℓ/パルス (0.001 m³/パルス)

モード/実行 (長押し 2秒) → 参照

DHCP

● AiSEG2/AiSEG3接続時は、AiSEG2/AiSEG3側で設定されたパルスレートが有効になりますので、水パルスレートおよびガスパルスレートの設定は不要です。

**DHCPモードを設定します。**

モード2 → モード1

モード/実行 (長押し 2秒) → 参照

・ネットワーク設定 DHCP  
 d1 (モード1) : DHCPでアドレス設定しますが、IPアドレスの下3桁は「\*\*\*.\*\*\*.201」で固定します。  
 d2 (モード2 ※出荷時設定) : DHCPでアドレスを設定します。  
 ※ ブラウザーからIP固定設定している場合、変更できません。

**接続機器のバージョンを表示します。**

※ 接続機器のバージョンは通常では使いませんが、メンテナンス時に使用します。

u1 → A → 11 → u2

参照

※ 表示例はバージョン A11です。

※バックアップ分電盤接続時のみ  
 u5: バックアップ分電盤電源ユニット  
 u6: 分岐電流センサ (バックアップ分電盤上)  
 u7: 分岐電流センサ (バックアップ分電盤下)

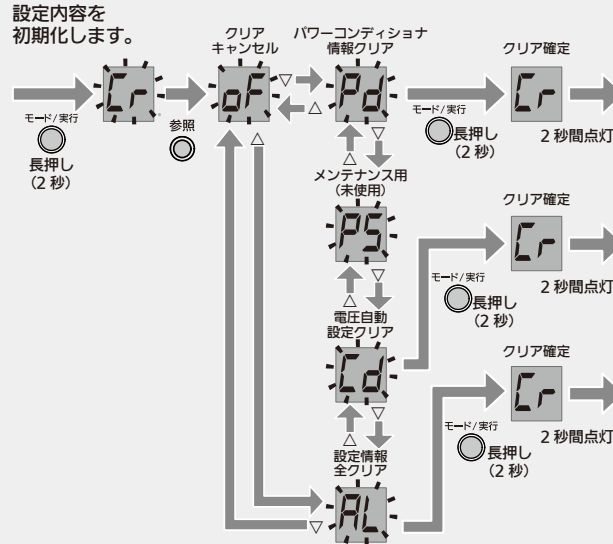
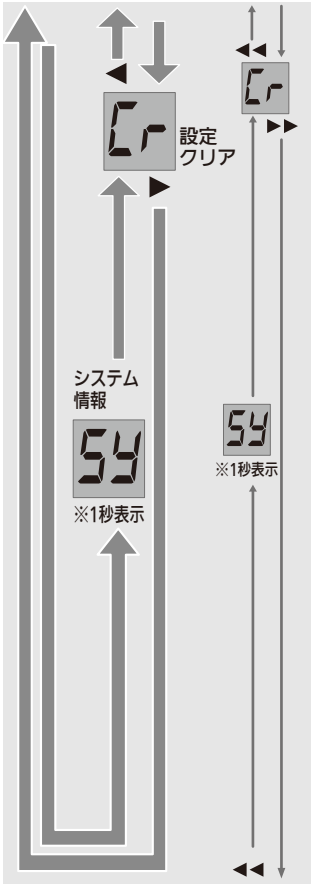
**パワーコンディショナの接続情報を表示します。**

アドレス設定が1~7に設定されたパワーコンディショナが正しく認識されている場合、d1~d7が表示されます。

d1: アドレス1のパワーコンディショナが接続  
 d2: アドレス2のパワーコンディショナが接続  
 ...  
 d7: アドレス7のパワーコンディショナが接続

# 施工方法

前ページのつづき



パワーコンディショナの接続台数、状態などをクリアし、30秒以内に再起動します。  
パワーコンディショナを新たに接続した場合、増設した場合あるいは接続が正しく認識されていない場合に実施してください。

電圧自動設定 (At) で決定した電圧設定をクリアし、30秒以内に再起動します。  
電圧設定を初期化する場合に実施してください。

設定内容をクリアし、30秒以内に再起動します。  
再起動後、「モード / 実行」ボタンを長押し (2秒) してください。  
(詳細は 27 ページ「エラーが表示されたら…」の表示コード「b1/b2」の説明を参照してください)

「CTの回路設定情報」も含め全ての設定をクリアします。施工完了後の電圧設定時や、初期化したい場合に実施ください。

### ■ クリア後の初期値 ※ 出荷時設定とは異なる場合がありますのでご注意ください。

- ・分岐電流センサ、特定 CT : 電圧自動設定
- ・電流制限器 : 無し
- ・過電流検知 : 無効
- ・水パルスレート : 0.001 m<sup>3</sup>/パルス
- ・ガスパルスレート : 0.01 m<sup>3</sup>/パルス
- ・DHCP モード : モード 2
- ・パワーコンディショナの接続台数、状態 : 初期化

## 手順7 AiSEG2/AiSEG3または本製品と接続可能なHEMSコントローラとの接続

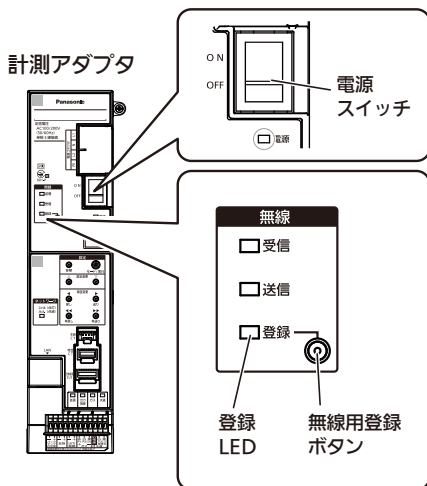
注) 蓄電システムよりも先に登録してください。

無線でAiSEG2/AiSEG3と接続する場合は【手順7-1】へ

有線LANでAiSEG2/AiSEG3または本製品と接続可能なHEMSコントローラと接続する場合は【手順7-2】

### 手順7-1 【無線でAiSEG2/AiSEG3と接続する場合】注) LAN ケーブル差込口にLAN ケーブルを接続しないでください。(接続していると無線で登録できません)

AiSEG2/AiSEG3の設定マニュアルや取扱説明書を参照し、無線機器の登録～動作確認を実施ください。



#### 無線登録方法

- ① AiSEG2/AiSEG3を登録待機状態に設定する。  
設定方法についてはAiSEG2/AiSEG3の設定マニュアルをご参照ください。
- ② 計測アダプタの無線用登録ボタンを長押し (2秒以上) する。

#### 登録完了した時

計測アダプタの登録LED (緑色) が点滅→点灯 (5分間) →消灯

#### 登録失敗した時

計測アダプタの登録LED (緑色) が点滅→消灯の場合  
再度無線登録方法の①～②を実施しても登録できない場合は、AiSEG2/AiSEG3の設定マニュアルにしたがって電圧状況をご確認ください。

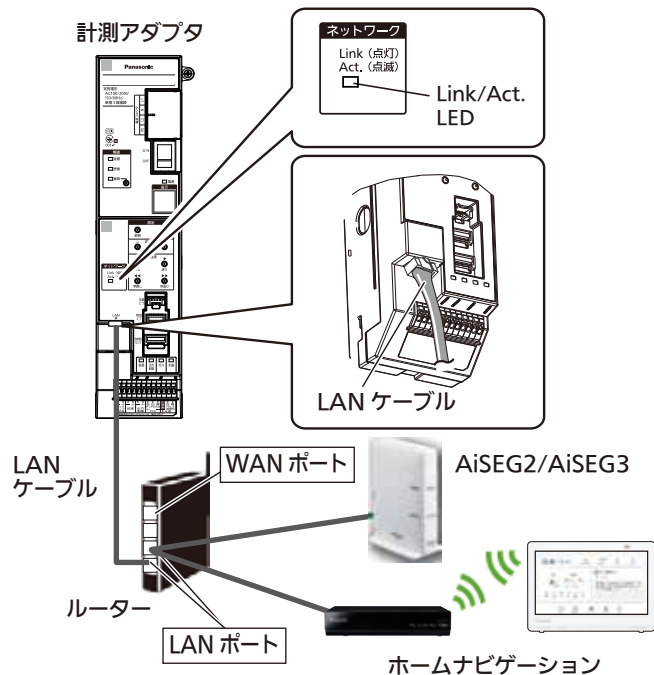
計測アダプタの登録LED (緑色) が早点滅の場合  
(早点滅: 0.5秒おきに点灯・消灯を繰り返します)  
計測アダプタにAiSEG登録情報が残っているため、以下の手順①～④を実施して登録情報を削除してください。

- ① 無線用登録ボタンを長押し (5秒) する。
- ② 30秒待ち、登録LED (緑色) が早点滅→消灯 と変化することを確認する。
- ③ 計測アダプタの電源スイッチをOFFにし、再度ONにする。
- ④ 登録LED (緑色) を確認する。  
遅点滅→AiSEG登録情報が削除できました。  
AiSEG2/AiSEG3の無線登録作業に進んでください。  
(遅点滅: 1秒おきに点灯・消灯を繰り返します)  
早点滅→登録情報の削除失敗です。  
再度登録情報削除の①～③を実施してください。

- 注1) 動作確認では、全ての測定対象回路で計測値をご確認ください。  
2) 全量買取方式で設定する場合は、AiSEG2/AiSEG3の設定マニュアルをご参照の上、設定してください。  
3) 無線登録完了後に登録ボタンを長押しすると、現在の登録が解除されます。もし長押しした場合は、再度無線登録作業を実施してください。

## 手順 7-2 【有線LANでAiSEG2/AiSEG3またはECHONET Lite規格に対応したHEMSコントローラと接続する場合】

AiSEG2/AiSEG3の設定マニュアルや取扱説明書を参照し、ネットワーク機器の登録を実施ください。



### 有線LAN接続方法

- ① LANケーブル差込口にLANケーブルを接続してください。  
※ LANケーブルはストレート、クロスどちらでも構いません。
- ② ルーターのLAN端子へLANケーブルを接続してください。
- ③ ルーターの電源を入れ、ルーターが動作開始してから、計測アダプタの電源を入れてください。  
(ネットワークのLink/Act. LEDの点灯・点滅を確認してください)
- ④ AiSEG2/AiSEG3またはECHONET Lite規格に対応したHEMSコントローラを計測アダプタが接続されているルーターと接続し、計測アダプタの登録や計測値の確認をしてください。  
詳細はAiSEG2/AiSEG3またはHEMSコントローラ側の説明書をご参照ください。

- 注1) IPv6非対応のため、マルチキャスト通信を行う機器を接続する場合は、17ページの「IPv6マルチキャスト通信を行う機器を接続する場合」をご参照ください。
- 2) 動作確認では、全ての測定対象回路で計測値をご確認ください。
  - 3) 全量買取方式で設定する場合は、AiSEG2/AiSEG3またはHEMSコントローラで追加設定を行ってください。
  - 4) 宅内ネットワーク環境やルーターを準備してください。
  - 5) AiSEG2/AiSEG3と直接接続して設定を行った場合、宅内ルーターを設置した際にIPアドレスが自動で設定されない場合があります。  
次ページの「DHCPモードについて」を参照し、IPアドレスを再設定してください。
  - 6) 無線機器登録を先に実施している場合は、無線機器登録をAiSEG2/AiSEG3側より削除してから、再度ネットワーク機器の登録を実施してください。  
その際、計測アダプタの電源は切らないでください。

## ● ECHONET Lite 規格に対応した HEMS コントローラとの接続確認

同一ネットワーク上に AiSEG2/AiSEG3 をはじめとする計測アダプタに対応した HEMS コントローラや ECHONET Lite 規格に準拠したその他機器（ネットリモコン含む）が接続されている場合ネットワークに接続したことを示す「Cn」が表示されます。（電源起動時、IP 変更時、機器を LAN に接続時）  
「◀◀」・「◀」・「▶」・「▶▶」を押すと設定の参照モードへ移行します。「Cn」表示後、HEMS コントローラとの接続が可能となります。  
詳細は HEMS コントローラ側の説明書をご参照ください。注) エラー発生中「Cn」は表示されません。



## ● DHCP モードについて

DHCP 機能では、2 種類のモード（モード 1/ モード 2）があります。お客様の使用環境にあわせて設定してください。設定方法は 7 ページ【回路設定方法】詳細をご参照ください。

・ネットワーク設定 DHCP

- |                  |  |
|------------------|--|
| 入（モード 1）         | : DHCP でアドレスを設定しますが、IP アドレスの下 3 桁は「***.***.***.201」で固定します。   |
| 入（モード 2 ※ 出荷時設定） | : DHCP でアドレスを設定します。<br>※ IP が特定範囲で割り振られます。通常はモード 2 をご利用ください。 |
| 切                | : 固定 IP で動作します。  |



※ DHCP 機能を使わずに固定 IP を使用する場合は、パソコンから変更する必要があります。

一時的に IP を固定した後パソコンの Web ブラウザーよりアクセスしネットワーク設定より DHCP を「切」にして任意の IP アドレスに設定してください。（対象 OS : windows 11 対応ブラウザ : Microsoft Edge）

## ● 一時的に IP を固定する方法

- ① 上記「手順 7-2」③の状態から LAN ケーブルを抜きます。30 秒待った後、計測アダプタの表示部が消灯中に「モード / 実行」ボタンを長押し（2 秒）してください。
- ② 表示部に「IP」と点滅したら再度「モード / 実行」ボタンを長押し（2 秒）してください。「IP」が点灯すれば以下アドレスに固定されます。  
IP アドレス : 169.254.201.201 サブネットマスク : 255.255.0.0
- ③ LAN ケーブルを接続して Web ブラウザーより「http://169.254.201.201/index.htm」へアクセスしてください。ネットワーク設定の画面より指示にしたがって設定してください。  
※ パソコンからアクセスする場合は同一ネットワークのアドレスに設定する必要があります。  
(例 IP アドレス : 169.254.201.100 サブネットマスク : 255.255.0.0)  
※ LAN ケーブルを再接続した後、5 秒程度通信再開まで時間がかかります。

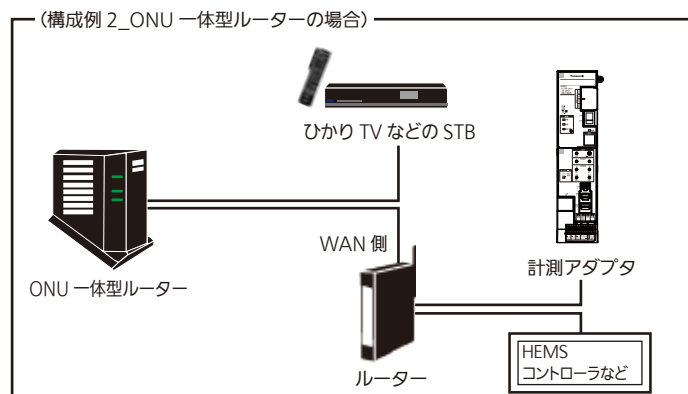
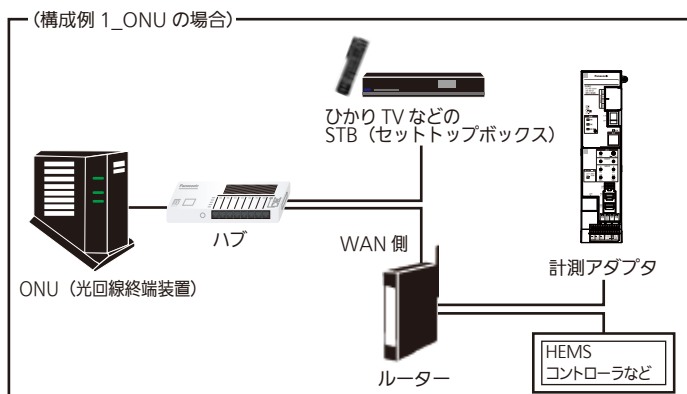
## 施工方法

### ● IP 固定状態を解除する方法

表示部が「IP」と点灯している状態で「モード / 実行」ボタンを長押し（2秒）してください。「IP」が消灯し、IP 固定状態が解除されます。

### ● IPv6 マルチキャスト通信を行う機器を接続する場合

マルチキャスト通信を行う機器（ひかり TV など）を接続する場合は、計測アダプタ、AiSEG2/AiSEG3 または HEMS コントローラと同一ネットワークとならないように、ルーターの WAN 側に HUB などを準備してください。詳細はひかり TV などの説明書をご覧ください。※1 株式会社 NTT ぷららと株式会社アイキャストが提供する映像配信サービスです。



### 手順8 設定確認チェックリスト

- 計測している個所がモニター側で正しく設定されていますか？
- 12 ページ【回路設定方法】概要を参考に、参照モードで全回路を確認して正しく設定できていますか？
- 13 ページ【回路設定方法】詳細を参考に、パワーコンディショナ接続情報（d1～d7）の表示から、計測アダプタが認識しているパワーコンディショナの台数が確認できます。接続しているパワーコンディショナの台数と同じ表示になっていますか？
- 全量買取方式を採用している場合、AiSEG2/AiSEG3 側で設定してください。その他の HEMS コントローラの場合は、その機器の仕様に合わせて設定してください。

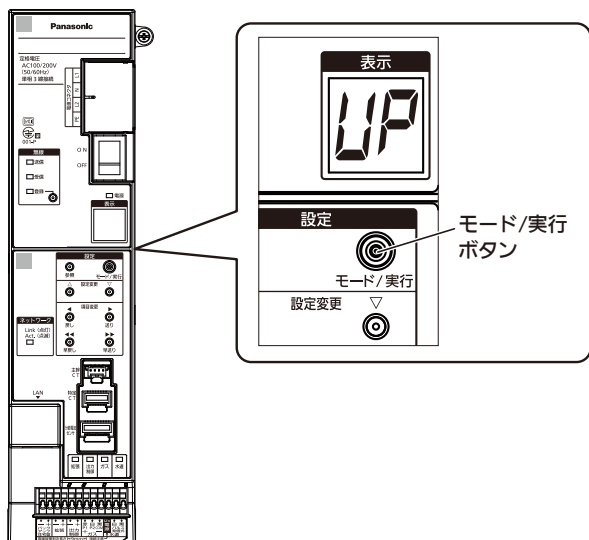
オプションの特定 CT を使用する場合は以下も追加でチェックしてください。

- 特定 1～4 は CT（150 A）、特定 5～8 は CT（30 A）を使用していますか？  
〔オプションの単相 3 線負荷を計測する場合は特定 5、6 は CT（150 A）を使用していますか？  
オプションの過電流検知機能を使用する場合は特定 7、8 は 過電流検知用 CT（分割形）が正しく取り付けられており、定格電流の設定をしていますか？〕
- 特定 CT の取り付け位置、方向は適切ですか？
- 特定 CT で回路の計測をしない CT がある場合、〔oF〕（未計測）の設定になっていますか？

## ■ ソフトウェアアップデート方法

最新のソフトウェアでない場合、外部ネットワークに接続することで最新のソフトウェアにアップデートできます。最新のソフトウェアにアップデートすることで、機能が追加されます。必要性に応じて最新ソフトウェアのアップデートを実施してください。

計測アダプタ



### • AiSEG2/AiSEG3 と接続している場合

- ① 計測アダプタがアップデート可能な場合、接続されているモニターに表示されます。画面の指示にしたがってアップデートしてください。

注)表示部に何も表示されていない状態で実施してください。

### • 計測アダプタからアップデート処理する場合

- ① 「モード / 実行」 ボタンを長押し (2 秒) します。
- ② アップデートソフトがある場合は、表示部に「UP」と表示されます。  
(電源を再投入した場合も表示部に「UP」と表示されます)
- ③ 「UP」と表示中、5分以内に「モード / 実行」 ボタンを長押し (2 秒) してください。
- ④ アップデートが実施されます。  
5分程度アップデート処理にかかります。  
その間は電力値が計測できませんのでご注意ください。

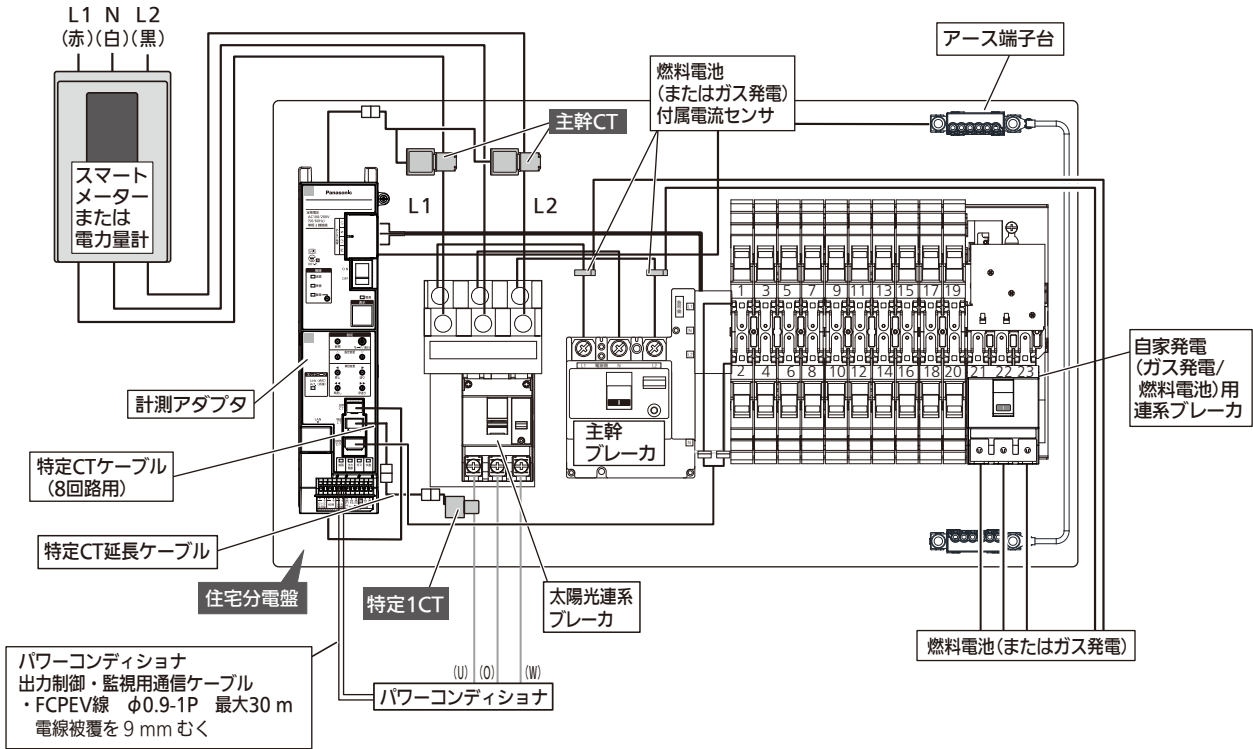
### • その他の HEMS コントローラからアップデート処理する場合

- ① 機器によっては以下の通知がされる場合があります。  
異常内容コード : 5D09  
メーカー異常コード : U03  
この場合は、HEMS コントローラと計測アダプタが、ネットワークを介して LAN ケーブルで接続されているかを確認してから、計測アダプタの「モード / 実行」 ボタンを長押し (2 秒) し、アップデートしてください。



## 配線例② 主幹計測+太陽光発電(1次連系)+燃料電池(またはガス発電)+分岐電流センサ計測

- ・別売の特定CT 分割形(150 A)、特定CTケーブル(8回路用)(25 cm)、特定CT延長ケーブルを使用。
- ・特定1をパワーコンディショナの分岐計測に使用。

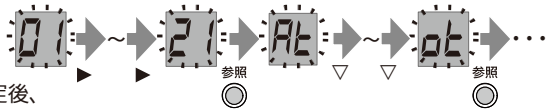


### 回路設定方法 使用例②

※ 設定の変更は設定モードで実施してください。(12ページ参照)

#### (1) 分岐電流センサの設定

1. 分岐電流センサ 21 を「0t」に設定します。  
(燃料電池(200 V)を接続する場合)



※ 燃料電池(100 V)を設定される場合は、「01」に設定後、接続しているブレーカに合わせて「1C」「3C」を設定してください。

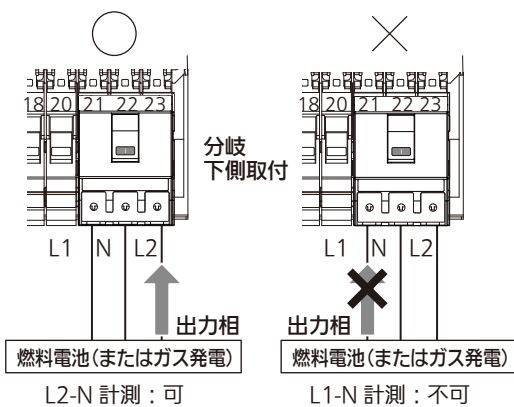
2. 必要に応じて設定を変更します。  
[出荷時、電圧自動設定(At)に設定されています]

#### (2) 特定 CT の設定

1. 特定 1 の CT を「P1」に設定します。  
(パワーコンディショナが接続されるため)

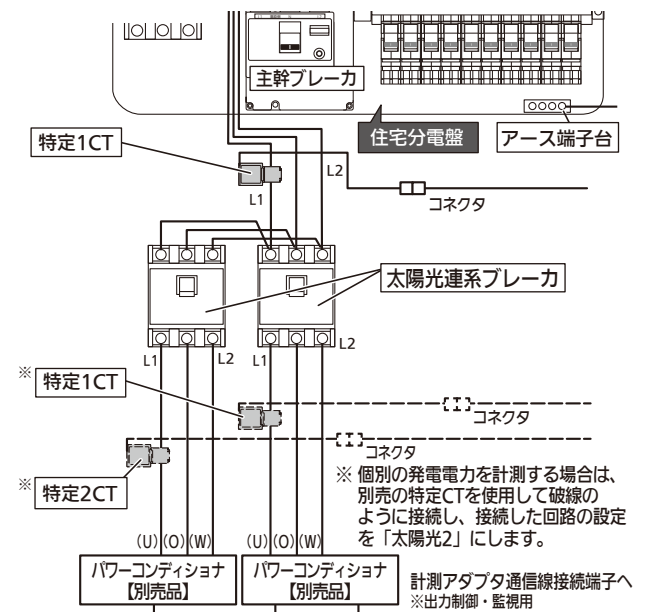
- 注 1) 主幹 CT は買(売)電力が計測できる位置に取り付けてください。  
2) 電力量計からの引込み線~住宅盤間で途中分岐回路(線)がある場合には、分岐点より上側(電力量計側)へ主幹 CT を設置する必要があります。  
3) 燃料電池(100 V)出力設備を使用する場合は、出力相に合わせてブレーカ設置箇所を選定してください。  
分電盤の上側は L1-N、下側は L2-N を計測します。  
4) 燃料電池(100 V)の出力相とブレーカの相が合わない場合は、燃料電池(100 V)側で出力相を変更し接続してください。  
変更できない場合は、特定 CT を使用して計測が可能です。

#### 【注 3) 4) 燃料電池(100 V)とブレーカの接続例】 分岐下側に接続する場合



#### 【パワーコンディショナを複数台接続する場合(1次連系)】

例) パワーコンディショナ2台の場合

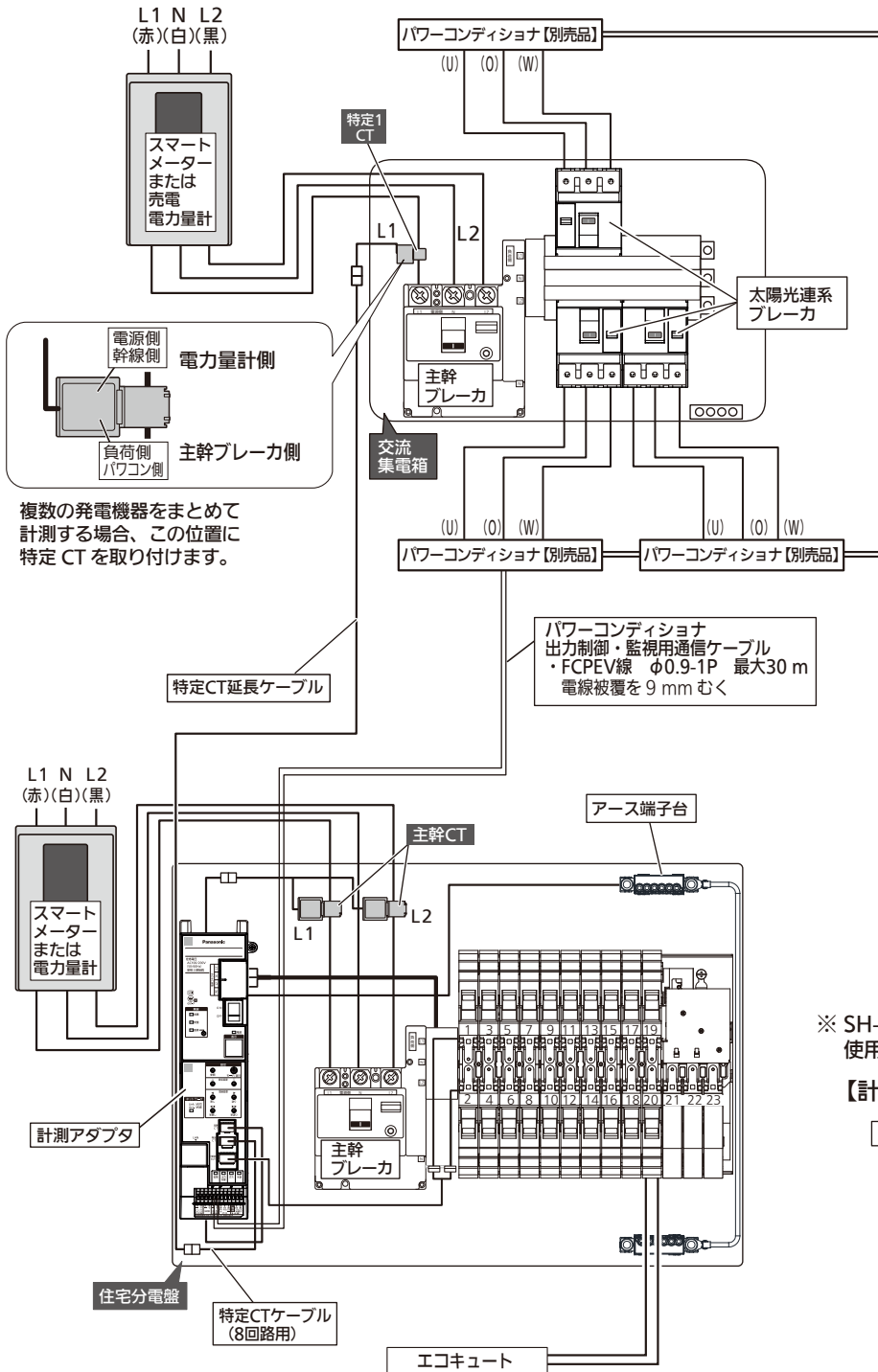


※ パワーコンディショナ間の接続・設定方法については、パワーコンディショナの説明書をご参照ください。

# 配線例

## 配線例③ 全量買取対応+主幹計測+エコキュート+分岐電流センサ計測

- ・別売の特定CT 分割形(150 A)、特定CTケーブル(8回路用)(25 cm)、特定CT延長ケーブルを使用。
- ・特定1を全量買取計測に使用。



### 回路設定方法 使用例③

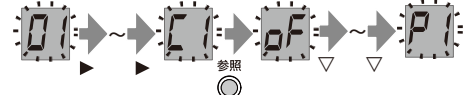
※ 設定の変更は設定モードで実施してください。(12ページ参照)

#### (1) 分岐電流センサの設定

1. 必要に応じて設定を変更します。  
(出荷時、電圧自動設定(Av)に設定されています)

#### (2) 特定CTの設定

1. 特定1のCTを「P1」に設定します。  
(パワーコンディショナが接続されるため)



- 注 1) 主幹CTは買(売)電力が計測できる位置に取り付けてください。
- 2) 電力量計からの引込み線~住宅盤間で途中分岐回路(線)がある場合には、分岐点より上位側(電力量計側)へ主幹CTを設置する必要があります。
- 3) 売電電力量計系統と電力量計系統は同一トランス配下の系統である場合に計測できます。
- 4) 太陽光の合計容量は30kWまでです。
- 5) CTは相線、極性を確認して電線に取り付けてください。
- 6) 太陽光連系ブレーカの定格電流は、パワーコンディショナの定格に応じて選定してください。

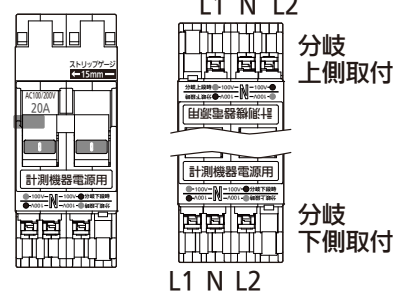
パワーコンディショナ定格	太陽光連系ブレーカ定格電流
4.8 kW 以下	30 A
4.8 kW 超~6.4 kW 以下	40 A
6.4 kW 超~8.0 kW 以下	50 A

- 7) 特定CT延長ケーブルは施工状況から必要な長さを選択し、発注してください。  
(最大30mまで延長可能)
- 8) 全量買取方式の場合、特定CTを「P1」に設定しておく必要があります。  
他の設定を行った場合は、全量買取方式での計測はできません。

※ SH-20M型 計測機器電源ブレーカ(BSH3202M)を使用される場合は、下記を参考に施工してください。

#### 【計測機器電源ブレーカ接続のご注意】

##### 推奨



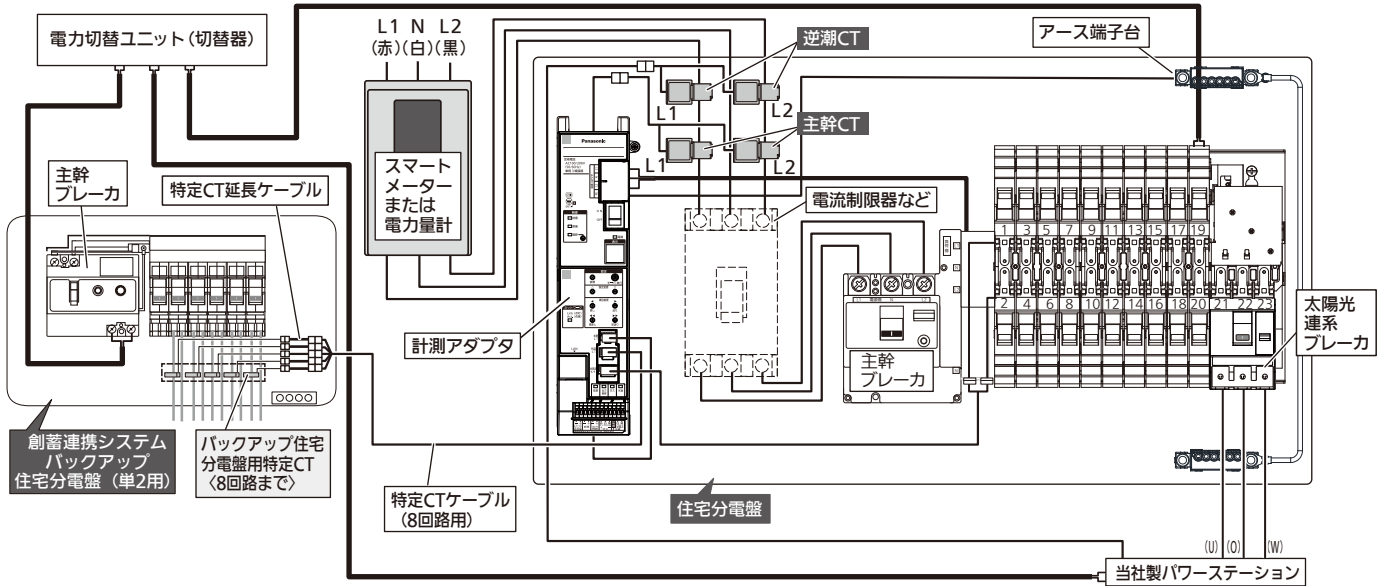
端子の色(相)表示と電線の色を合わせて接続してください。  
ブレーカの端子位置と相の関係は左図のようになります。

# 配線例

## 配線例④ 主幹計測+パワーステーション2次連系接続方式(単2バックアップ住宅分電盤接続)+分岐電流センサ計測

- ・別売の特定CT 分割形(150 A)、特定CTケーブル(8回路用)(25 cm)、特定CT延長ケーブルを使用。
- ・特定1~8をバックアップ住宅分電盤の分岐計測に使用。

※ パワーステーションは、蓄電池の接続された『パワーコンディショナR』なども含みます。

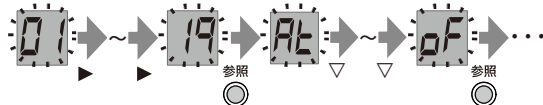


### 回路設定方法 使用例④

※ 設定の変更は設定モードで実施してください。(12ページ参照)

#### (1) 分岐電流センサの設定

1. 分岐電流センサ 19 を「oF」に設定します。



※バックアップ分電盤の主幹を計測する場合は、負荷回路の設定が必要です。  
(その場合は、バックアップ分電盤の主幹・分岐回路共にAt設定は使えません)

2. 分岐電流センサ 21、22、23 を「oF」に設定します。

(蓄電システムが接続されるため)

3. 必要に応じて設定を変更します。

[出荷時、電圧自動設定(At)に設定されています]

#### (2) 特定CTの設定

1. 必要に応じて設定を変更します。

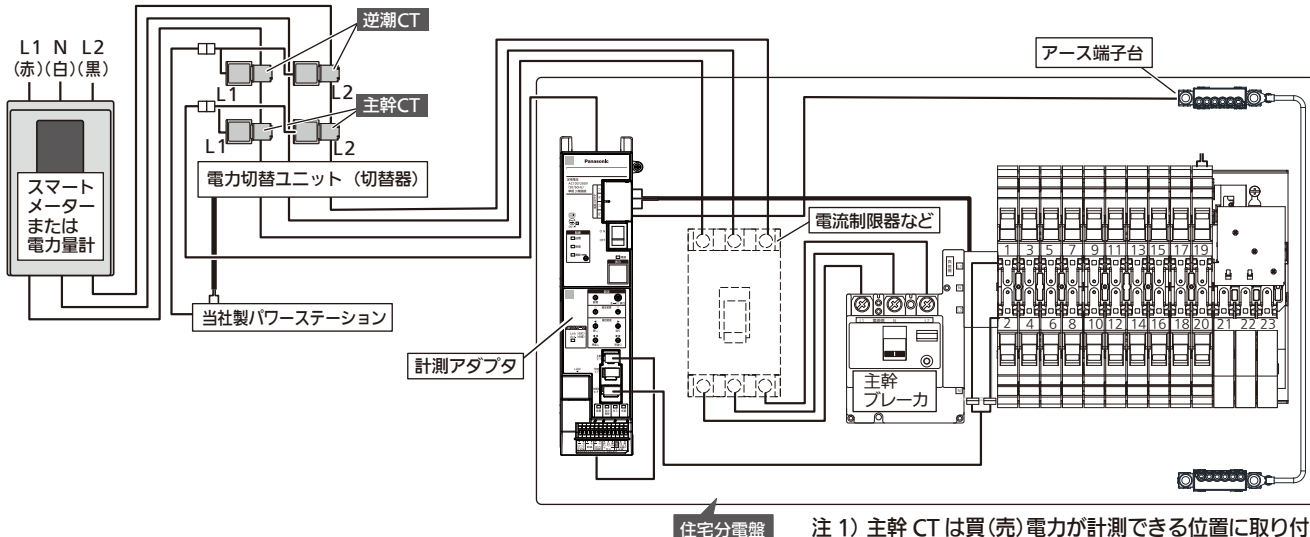
注 1 主幹 CT は買(売)電力が計測できる位置に取り付けてください。

2 電力量計からの引込み線~住宅盤間で途中分岐回路(線)がある場合には、分岐点より上位側(電力量計側)へ主幹 CT を設置する必要があります。

3 蓄電システムを接続する場合は、計測アダプタとの通信線の接続や CT 計測は行わないでください。(計測が正しくできません)

## 配線例⑤ 全負荷切替盤

※ パワーステーションは、蓄電池の接続された『パワーコンディショナR』なども含みます。



### 回路設定方法 使用例⑤

※ 設定の変更は設定モードで実施してください。(12ページ参照)

#### (1) 分岐電流センサの設定

1. 必要に応じて設定を変更します。  
[出荷時、電圧自動設定(At)に設定されています]

注 1 主幹 CT は買(売)電力が計測できる位置に取り付けてください。

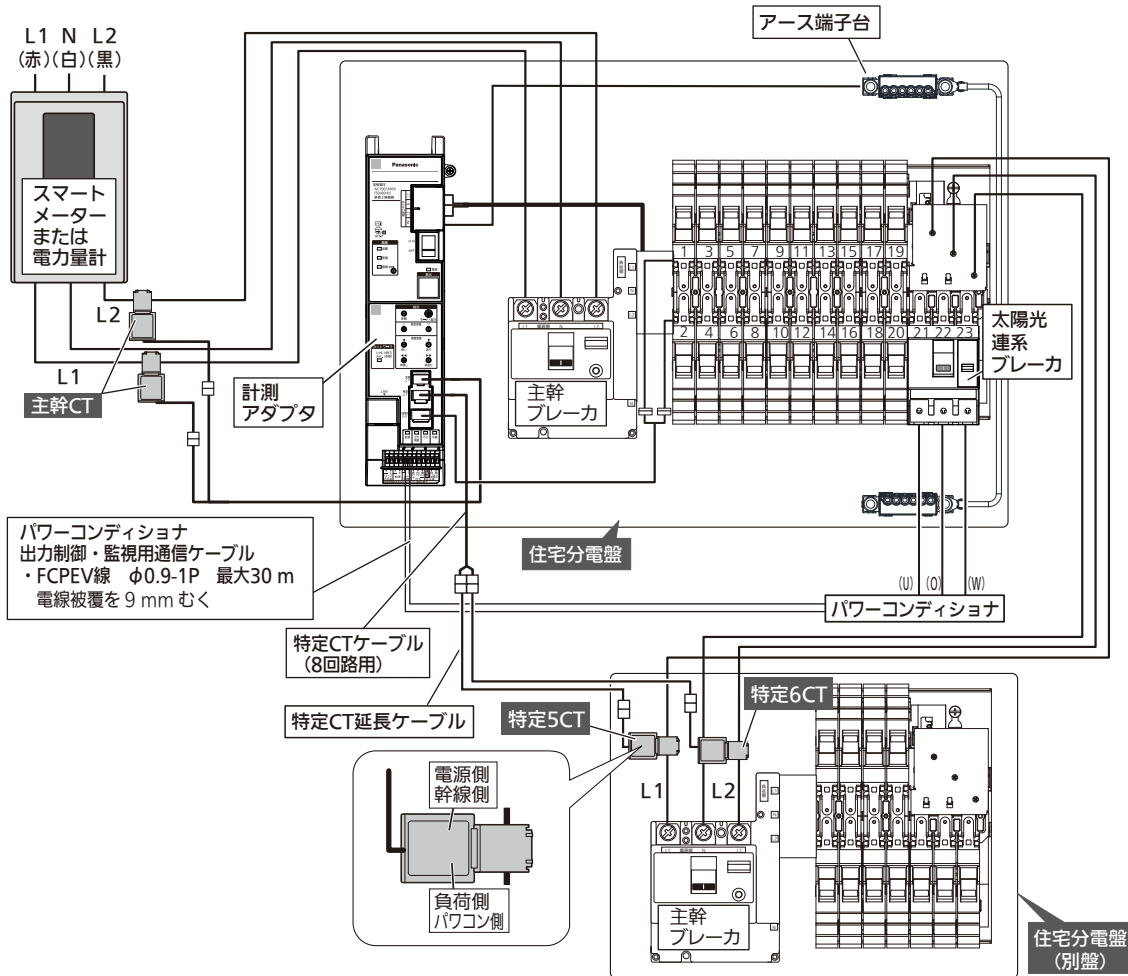
2 電力量計からの引込み線~住宅盤間で途中分岐回路(線)がある場合には、分岐点より上位側(電力量計側)へ主幹 CT を設置する必要があります。

3 蓄電システムを接続する場合は、計測アダプタとの通信線の接続や CT 計測は行わないでください。(計測が正しくできません)

# 配線例

## 配線例⑥ 主幹計測+太陽光(2次連系)+単相3線負荷計測(別盤)+分岐電流センサ計測

- ・ 特定CT 分割形(150 A) ×2個、特定CTケーブル(8回路用)(25 cm)、特定CT延長ケーブルを使用。
- ・ 特定5を単相3線負荷計測に設定。

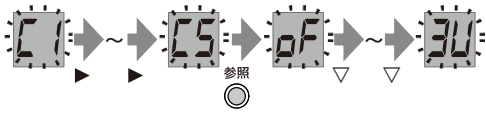


### 回路設定方法 使用例⑥

※ 設定の変更は設定モードで実施してください。(12ページ参照)

#### (1) 特定 CT の設定

1. 特定5のCTを「3V」に設定します。  
(同系統下の他住宅盤などの単相3線負荷を計測するため)



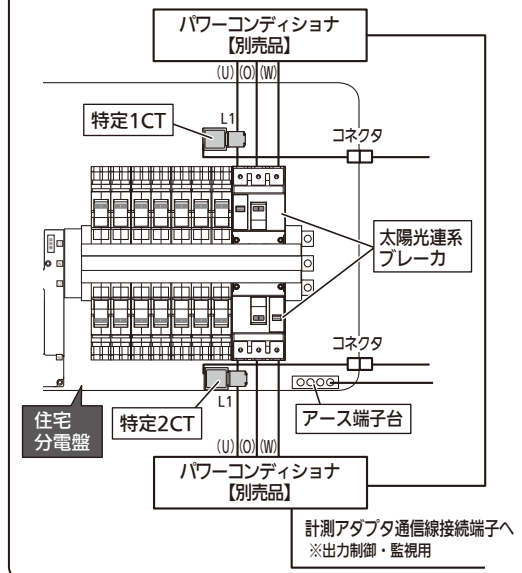
※ 「3V」設定は特定5CTにのみ設定可能です。「3V」設定すると、特定6CTは「-」設定になり、設定を変更できなくなります。単相3線負荷計測設定に主幹加算機能はありません。

- 注 1) 主幹CTは買(売)電力が計測できる位置に取り付けてください。
- 2) 電力量計からの引込み線～住宅盤間で途中分岐回路(線)がある場合には分岐点より上側(電力量計)へ主幹CTを設置する必要があります。
- 3) 特定CT延長ケーブルは施工状況から必要な長さを選択し、発注してください。(最大30mまで延長可能)
- 4) 電圧自動設定(A<sub>t</sub>)設定は電圧設定が反映されるまで時間がかかる場合があります。(最大24時間) 何度か接続されている負荷のON/OFFを実施すると最短5分程度で正しく電圧設定されます。手動で設定される場合は、13ページ【回路設定方法】詳細を参照し、適切な電圧に設定してください。

### 【別盤のパワーコンディショナを計測する場合】

例) パワーコンディショナ2台の場合

※ 別売の特定CTを使用し、下図の設定をしてください。  
(この場合、ガス発電などの外部発電の計測はできません)



※ パワーコンディショナ間の接続・設定方法については、パワーコンディショナの説明書をご参照ください。

# 計測値異常時の施工確認項目

どの値が?	どのように?	ご確認事項	[A]~[E]は26ページの参考図をご参照ください。	
全部	数値が高い・低い	【1】ブレーカがONになっていますか? 【2】「Ad」設定したCTは主幹CTが計測している箇所と異なる蓄熱暖房盤に施工されていますか? 主幹CTが計測している箇所を計測している場合、重複して高めに計測してしまうことがあります。	— —	
	計測値が表示されない	【1】計測アダプタが登録されていますか? 登録処理はHEMSコントローラ取扱説明書をご参照ください。 【2】SHN型単3分岐ブレーカの分岐上側に接続されていませんか? 【3】燃料電池(100V)をご利用の場合、燃料電池(100V)の出力相とブレーカの相が一致していますか? (20ページの配線例②注参照)	— [A] —	
使用量(つかう)	0kWになる/そもそも項目が出ない	【1】主幹CT(2個)の取付け電線は正しいですか? 「L1ケーブル」が主幹ブレーカの赤(L1)、「L2ケーブル」が主幹ブレーカの黒(L2)になります。 【2】主幹CTの「電源側」と「負荷側」の向き(上・下)は正しいですか? 主幹CTにラベルが貼られており、「電源側」が電力メーター側、「負荷側」がブレーカ側になります。	[B]	
	99.9kWになる	【1】L1の線に取り付けていますか? 【2】「負荷側、パワコン側」と「電源側、幹線側」の向きは合っていますか? CTにラベルが貼られており、「負荷側、パワコン側」がパワーコンディショナ側、「電源側、幹線側」が太陽光連系ブレーカ側になります。	[C]	
太陽光(つくる)	99.9kWになっている/夜間に発電している	【1】特定CTは、太陽光連系ブレーカからパワーコンディショナ間の「L1(赤線)」の線に取り付けていますか? 【2】特定CTの向きは合っていますか? 「負荷側、パワコン側」がパワーコンディショナ側になっていますか? 【3】「太陽光」設定した特定CTでパワーステーションを計測していませんか? パワーステーションの電力はAiSEG2/AiSEG3に通信で送られます。 二重に計測されてしまうので、特定CTでは計測しないようにしてください。	[C] —	
	太陽光(つくる)が出ない	【1】特定CT、分岐回路に太陽光発電が設定されていますか? 操作部で設定します。	[E]	
買電・売電(かう・うる)	表示が逆になっている	【1】主幹CT(2個)の取付け電線は正しいですか? 「L1ケーブル」が主幹ブレーカの赤(L1)、「L2ケーブル」が主幹ブレーカの黒(L2)になります。 【2】主幹CTの「電源側」と「負荷側」の向き(上・下)は正しいですか? 主幹CTにラベルが貼られており、「電源側」が電力メーター側、「負荷側」がブレーカ側になります。	[B]	
	計測値が表示されない	主幹CTは正しく接続されていますか? 【1】ハーネスが外れていないことを確認してください。 【2】主幹CTの「負荷側」と書かれた方をブレーカに向けて取り付けてください。 【3】主幹CTの「L1」を主幹ブレーカの赤線(L1)に、主幹CTの「L2」を主幹ブレーカの黒線(L2)に取り付けてください。 「売る」が表示されない。 【1】系統引込線(本線)へ主幹CTが接続されていることをご確認ください。	[B] —	
	計測値が異常	計測値が異常	計測値は半分になっていますか? 【1】主幹CTの留め具を「カチッ」と音がするまで確実に締めてください。 【2】主幹CTの取付け位置は売電(逆潮流)が測れる位置に取り付けていますか? 【3】主幹CTの取付けやCT自体に問題はありますか? ハーネス、コネクタ、CT自体の破損などの確認をしてください。	—
			計測値が上記以外の異常では… 【1】主幹CT片側の方向が逆になっていませんか? 【2】ケーブル切断や延長(継ぎ足し)などはしていませんか? オプション【別売品】のケーブルで施工してください。	—

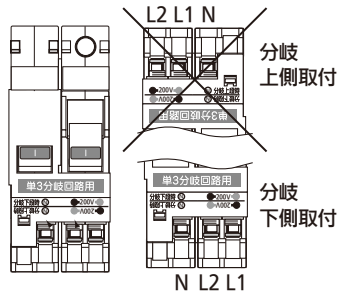
# 計測値異常時の施工確認項目

どの値が?	どのように?	ご確認事項	[A]~[E]は26ページの参考図をご参照ください。
分岐回路	数値が高い・低い	<p>【1】分岐回路の電圧は正しく設定されていますか?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電圧 (100 Vまたは200 V) は中央段の操作部で設定します。</li> </ul> <p>〈例〉分岐5に負荷回路を設定する場合 200 V負荷ならば、表示部で「05」を表示させ、負荷設定を「2V」に設定します。 100 V負荷ならば、表示部で「05」を表示させ、負荷設定を「1V」に設定します。</p>	E
	数値が明らかに高い・低い (2倍や1/2)	<p>【1】分岐回路の電圧は正しく設定されていますか?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電圧 (100 Vまたは200 V) は計測アダプタ中央段の操作部で設定します。</li> </ul> <p>〈例1〉分岐5に負荷回路を設定する場合 200 V負荷ならば、表示部で「05」を表示させ、負荷設定を「2V」に設定します。 100 V負荷ならば、表示部で「05」を表示させ、負荷設定を「1V」に設定します。</p> <p>〈例2〉分岐6に外部発電を設定する場合 200 Vならば、表示部で「06」を表示させ、回路設定を「ot」に設定します。 100 Vならば、表示部で「06」を表示させ、回路設定を「o1」に設定し、接続しているブレーカに合わせ「1C」または「3C」に設定します。</p>	E
		<p>【2】「電圧自動設定 (At)」した分岐回路は正しく認識されていますか?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電圧自動設定 (At) は、L1相100 V負荷「AA」、L2相100 V負荷「Ab」、200 V負荷「AC」を自動で設定します。</li> <li>判定が完了するまで負荷機器動作後5 ~ 10分かかる場合があります。</li> <li>参照モードで見ること、現在の電圧設定と認識しているかの確認ができます。</li> <li>蓄電システムをご利用の場合、手動で設定してください。</li> <li>CTの相・極性、電圧変更など、施工状態を変更した際は計測アダプタを再起動してください。</li> </ul>	E
特定CT (オプション)	数値が高い・低い	<p>【1】特定CTの向き (負荷側・ブレーカ側) は正しいですか?</p> <p>特定CT (30 A) の場合 「負荷側」が負荷側 (照明・コンセントなど) また、「ブレーカ側」はブレーカ側になっていますか?</p> <p>特定CT (150 A) の場合 「電源側、幹線側」が電力メーター側、「負荷側、パワコン側」がブレーカ側になっていますか?</p>	-
		<p>【2】特定CTを取り付ける電線は正しいですか?</p> <p>100 Vのブレーカの場合 「L」側にCTを取り付けていますか? 200 Vのブレーカ、蓄熱暖房器対応分電盤用主幹ブレーカの場合 「L1」側にCTを取り付けていますか?</p>	D
		<p>【3】特定CTの電圧および電圧相は正しく設定されていますか?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電圧 (100 Vまたは200 V)、電圧相 (L1またはL2) は中央段の操作部で設定します。</li> </ul> <p>〈例〉特定5CTに負荷回路を設定する場合 200 V負荷ならば、表示部で「C5」を表示させ、負荷設定を「2V」に設定します。 100 V負荷ならば、表示部で「C5」を表示させ、負荷設定を「1V」に設定し、電圧相に合わせて「L1」または「L2」に設定します。</p>	E
	数値が明らかに高い・低い (2倍や1/2)	<p>【1】特定1~4CTは150 A専用、特定5~8CTは30 A専用です。正しく接続されていますか? 例えば特定1に30 A用CTを接続すると正しく計測されません。</p> <p>【2】特定CTの電圧および電圧相は正しく設定されていますか?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電圧 (100 Vまたは200 V)、電圧相 (L1またはL2) は中央段の操作部で設定します。</li> </ul> <p>〈例1〉特定5CTに負荷回路を設定する場合 200 V負荷ならば、表示部で「C5」を表示させ、負荷設定を「2V」に設定します。 100 V負荷ならば、表示部で「C5」を表示させ、負荷設定を「1V」に設定し、電圧相に合わせて「L1」または「L2」に設定します。</p> <p>〈例2〉特定2CTに外部発電を設定する場合 200 Vならば、表示部で「C2」を表示させ、回路設定を「ot」に設定します。 100 Vならば、表示部で「C2」を表示させ、回路設定を「o1」に設定し、電圧相に合わせて「L1」または「L2」に設定します。</p> <p>【3】「別盤加算用 (蓄熱暖房)」、「単相3線負荷計測」用特定CTは正しく設定されていますか?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>別盤加算用 (蓄熱暖房)「Ad」、単相3線負荷計測「3 V」設定は計測アダプタ中央部の操作部で設定します。</li> <li>設定した回路は「CT (特定用) 分割形 (150 A) 品番: MKN73BCT150【別売品】」を取り付けてください。</li> </ul> <p>【4】「電圧自動設定 (At)」した特定CTは正しく認識されていますか?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電圧自動設定 (At) は、L1相100 V負荷「AA」、L2相100 V負荷「Ab」、200 V負荷「AC」を自動で設定します。</li> <li>判定が完了するまで負荷機器動作後5 ~ 10分かかる場合があります。</li> <li>参照モードで見ること、現在の電圧設定と認識しているかの確認ができます。</li> <li>蓄電システムをご利用の場合、手動で設定してください。</li> <li>CTの相・極性、電圧変更など、施工状態を変更した際は計測アダプタを再起動してください。</li> </ul>	- E E E

# 計測値異常時の施工確認項目

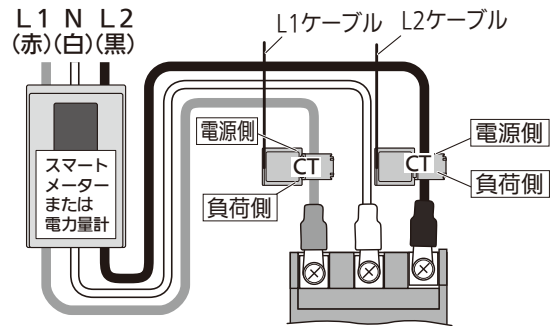
## 参考図

**A** 【SHN型 単3分岐ブレーカ負荷計測のご注意】



負荷を接続する場合は、分岐下側に接続してください。  
分岐上側では電力計測ができません。

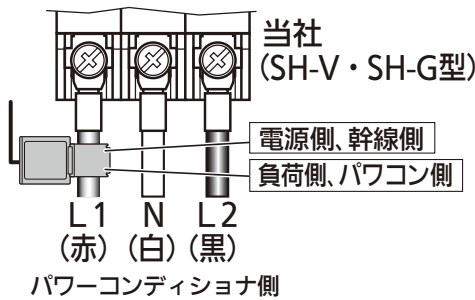
**B**



主幹ブレーカ1次側

**C** \* 太陽光連系ブレーカが主幹ブレーカ1次側にある場合 (太陽光1次連系)

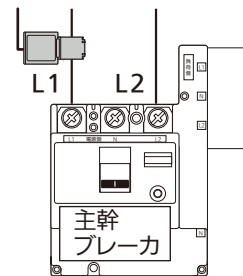
太陽光連系ブレーカ  
(プラグイン端子タイプ)



パワーコンディショナ側

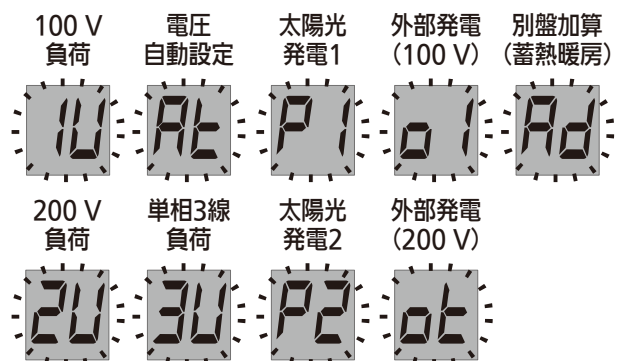
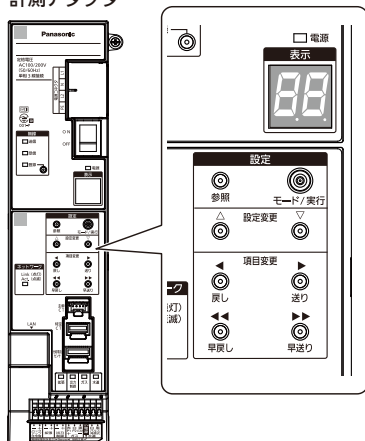
**D**

蓄熱暖房器対応分電盤用  
主幹ブレーカの場合



**E**

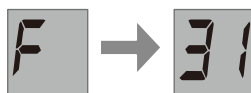
計測アダプタ



# エラーが表示されたら・・・

エラーが発生するとエラーコードで表示します。  
(重要度の高いものから最大3つまで表示します)

エラー F31の場合



※エラーが4つ以上の場合は、問題を解消したのから表示が消え、次項のエラーコードを表示します。

エラーコード	エラー内容	対 策
F01～06、31、41	計測アダプタハードエラー	計測アダプタの電源スイッチを「OFF」「ON」し、再度エラー表示を確認してください。
F21	パワーコンディショナ通信エラー	パワーコンディショナを接続している場合、通信線の接続を確認してください。施工確認用LEDが消灯している場合は、通信が確立されていません。
F32	分岐電流センサ（上）通信エラー	分岐電流センサ（上：黒線）と計測アダプタ間の接続を確認してください。
F33	分岐電流センサ（下）通信エラー	分岐電流センサ（下：白線）と計測アダプタ間の接続を確認してください。
F34	バックアップ分電盤電源ユニット通信エラー	バックアップ分電盤電源ユニットと計測アダプタ間の通信線の接続を確認してください。接触不良や外れ、極性間違いなどはありませんか？
F35	バックアップ分電盤分岐電流センサ(上) 通信エラー	バックアップ分電盤分岐電流センサ（上：黒線）とバックアップ分電盤電源ユニット、計測アダプタ間の接続を確認してください。
F36	バックアップ分電盤分岐電流センサ(下) 通信エラー	バックアップ分電盤分岐電流センサ（下：白線）とバックアップ分電盤電源ユニット、計測アダプタ間の接続を確認してください。
F42	分岐電流センサ(上)ハードエラー	電源配線を確認してください。相線接続が正しいか、または単相3線接続より通電されているか確認してください。分岐電流センサ(上：黒線)と計測アダプタ間の接続を確認してください。
F43	分岐電流センサ(下)ハードエラー	電源配線を確認してください。相線接続が正しいか、または単相3線接続より通電されているか確認してください。分岐電流センサ(下：白線)と計測アダプタ間の接続を確認してください。
F45	バックアップ分電盤分岐電流センサ(上)ハードエラー	電源配線を確認してください。相線接続が正しいか、または単相3線接続より通電されているか確認してください。バックアップ分電盤分岐電流センサ(上：黒線)とバックアップ分電盤電源ユニット、通信アダプタ間の接続を確認してください。
F46	バックアップ分電盤分岐電流センサ(下)ハードエラー	電源配線を確認してください。相線接続が正しいか、または単相3線接続より通電されているか確認してください。バックアップ分電盤分岐電流センサ(下：白線)とバックアップ分電盤電源ユニット、通信アダプタ間の接続を確認してください。
A11	パワーコンディショナエラー	パワーコンディショナにエラーが発生しています。モニター側により詳しいエラー内容が表示されていますので、パワーコンディショナの説明書を確認してください。
上記以外	その他エラー	計測アダプタの電源スイッチを「OFF」「ON」し、再度エラー表示を確認してください。

※ 上記対策を実施後、計測アダプタの電源スイッチを「OFF」にし、数秒後に再度電源を「ON」してもエラー表示が消えない場合は故障の可能性があります。修理窓口へご連絡ください。

※ 下記の表示コードはエラーではありません。

表示コード	表示内容	説 明
U02	IP重複検出	同一ネットワーク上に同じIPアドレスの機器が存在します。対象の機器のIPアドレスまたは計測アダプタのIPアドレスを変更してください。
8A	識別コード	起動時、表示部が全点灯した後、表示部に「8A」と表示されます。
Cn	ECHONET Lite接続表示	同一ネットワーク上にAiSEG2/AiSEG3をはじめとする計測アダプタに対応したHEMSコントローラやECHONET Lite規格に準拠したその他機器が接続されている場合、ネットワークに参入した際（電源起動時、IP変更時、機器をLANに接続時）、接続を示す「Cn」が表示されます。
IP	IP固定表示	「モード/実行」ボタンを長押し（2秒）すると「IP」と点滅表示されます。これは一時的にIPを固定するかどうかの確認をしています。計測アダプタの電源スイッチを「OFF」「ON」すると表示が消え、元に戻ります。
b1/b2	分電盤構成 b1：住宅分電盤 b2：バックアップ分電盤	<p>設定情報全クリアを実施した場合や初めてバックアップ分電盤電源ユニットを接続した場合、起動表示部に「8A」と表示された後、「b1」→「数字」→「b2」→「数字」→「b1」→・・・と表示されますので、「モード/実行」ボタンを長押し（2秒）してください。計測アダプタに分岐電流センサ数が認識され、回路設定ができるようになります。（分岐電流センサ数は住宅分電盤の実装ブレーカ回路数より多い場合があります）</p> <p>※右記の表示の場合、住宅分電盤は31回路、バックアップ分電盤は未接続（oF）として認識されています。</p>

## モニターが表示がおかしいときは・・・

事象	状態	確認事項
モニターに電力 使用量などが 表示されない	LAN接続時、 Link/Act. LEDが消灯	計測アダプタおよび、接続機器（ルーター・HEMS機器）にLANケーブルが正しく接続されているか確認してください。
		計測アダプタおよび、接続機器（ルーター・HEMS機器）の電源が入っているか確認してください。
		同一のネットワーク上に接続されているか確認してください。
		上記で異常が見当たらない場合は、LANケーブルの断線、破損、プラグ配列パターン誤接続のおそれがあります。
	LAN接続時、 表示部にCnが 表示されない	計測アダプタに接続しているLANケーブルを挿抜、もしくは電源スイッチ、計測アダプタを接続しているブレーカを「OFF」⇒「ON」しても表示されないか確認してください。また、計測アダプタのLink/Act. LEDが点灯しているか確認してください。
		計測アダプタを固定IPアドレス（任意設定）にしている場合は、誤ったアドレスを設定していないか確認してください。（IPアドレス重複時はU02が表示されます）
ルーターが正しく設定されているか確認してください。		
無線接続時、 送信/受信LEDが 点灯/点滅しない	計測アダプタとAiSEG2/AiSEG3またはHEMSコントローラが同一ルーターのLANポートに接続されているか確認してください。	
	AiSEG2/AiSEG3の設定マニュアルや説明書を参考に、電波到達確認をしてください。説明書を参考にして問題が解決しない場合は、AiSEG2/AiSEG3側の登録を削除し、計測アダプタの無線機器の登録をやり直してください。その際、計測アダプタの電源は切らないでください。	
モニターに回路 が表示されない	起動時、 表示部が点滅 (「b1」→「数字」→「b2」 →「数字」→…と表示)	「モード/実行」ボタンを長押し（2秒）し、回路を確定してください。 構成変更は自動で再認識しますが、反映に時間（10分程度）がかかる場合があります。
上記で異常が見当たらない場合は、AiSEG2/AiSEG3またはHEMSコントローラの説明書を確認してください。		
モニターの水道、 ガス使用量が おかしい	使用量が高い、低い 使用量が出てこない	計測アダプタでパルスレートの設定が、メーター側のパルスレートと一致しているか確認してください。AiSEG2/AiSEG3と接続している場合は、AiSEG2/AiSEG3側で設定を確認してください。また、施工確認LEDが点灯しているか確認してください。
上記で異常が見当たらない場合は、水道メーター・ガスメーター側の説明書を確認してください。		

# 仕様

定格電圧	AC100/200 V (50/60 Hz) 単相3線接続
定格電流	主 幹 : 定格電流 150 A (50/60 Hz) ※ 電線径は38 mm <sup>2</sup> まで 分岐電流センサ : 定格電流 50 A (50/60 Hz) 【オプション】 特定 1~4 : 定格電流 150 A (50/60 Hz) ※ 電線径は38 mm <sup>2</sup> まで 特定 5~8 : 定格電流 30 A (50/60 Hz) ※ 電線径はVVFケーブルφ2.6まで [特定 5・6 : 定格電流 150 A (50/60 Hz) ※ オプションの単相3線負荷計測設定使用時] [特定 7・8 : 定格電流 100 A (50/60 Hz) ※ オプションの過電流検知CT使用時]
電力測定範囲	主 幹 : -30 kW~+30 kW (単相3線測定 : 各相電圧100 V) ※ 20 W以下の計測値は0 Wになります。 〔別盤加算 (蓄熱暖房) 機能使用時のみ、-30 kW~+60 kW (単相3線測定 : 各相電圧100 V) 〕 ※ 20 W以下の計測値は0 Wになります。 分岐電流センサ : 0~10 kW (単相2線測定 : 電圧100/200 V) ※ 5 W以下の計測値は0 Wになります。 なお、200 V設定時、10 W以下の計測値は0 Wになります。 【オプション】 特定 1~4 : 0~30 kW (単相2線測定 : 電圧100/200 V) ※ 20 W以下の計測値は0 Wになります。 特定 5~8 : 0~6 kW (単相2線測定 : 電圧100/200 V) ※ 10 W以下の計測値は0 Wになります。 〔特定 5・6 : 0~30 kW (単相3線測定 : 各相電圧100 V) ※ オプションの単相3線負荷計測設定使用時〕 ※ 20 W以下の計測値は0 Wになります。
電力計測精度	±3.0 % (cosφ=1 : 定格5 %~100 %の間)、±2.0 % (cosφ=1 : 定格100 %) (精度条件はVin=100 V±6 V 周囲温度 : 23 °C±5 °C) ※ 電圧自動設定 (At) の場合は、自動設定完了後からになります。
トータル積算電力量計測精度	±3.0 % (cosφ=1 : 定格5 %~100 %の間)、±2.0 % (cosφ=1 : 定格100 %) (精度条件はVin=100 V±6 V 周囲温度 : 23 °C±5 °C) ※ 電圧自動設定 (At) の場合は、自動設定完了後からになります。
消費電力	4 W以下
使用温度範囲	-10 °C~+40 °C
使用相対湿度	85 %RH以下 (ただし、結露なきこと)
ガス・水道パルスメータ接続線	VCTF線 (0.5 mm <sup>2</sup> ~0.75 mm <sup>2</sup> ) または FCPEV線またはAE線 (φ0.65~0.9) 最大50 m
パワーコンディショナ通信線	FCPEV線 (φ0.9-1P) 最大30 m (計測アダプタからパワーコンディショナ1台目間)
各種接続端子	速結端子
パワーコンディショナ接続可能台数	最大7台 (ただし、合計定格容量30 kWまで) ※ パワーコンディショナ側の最大接続可能台数が5台のものもありますので、パワーコンディショナの説明書をご参照ください。
無線通信部	無線規格 : 特定小電力無線局 (テレメータ用) ARIB STD-T108 準拠 使用周波数 : 924.0 MHz ~ 928.0 MHz 電圧到達距離 : 電圧障害物のない場所での水平見通し距離 約100 m (周囲環境により異なります)
有線LAN通信部	通信規格 : IEEE802.3/IEEE802.3uに対応 / ECHONET Lite準拠 接続方式 : 10BASE-T/100BASE-TXに対応 対応インターネットプロトコルバージョン : IPv4 MACアドレス : LANケーブル差込口の機器コードラベル最下行に記載 ※記載位置は5ページの「各部のなまえとはたらき」をご参照ください。

Microsoft<sup>®</sup>、Windows<sup>®</sup>、Microsoft<sup>®</sup> Edge は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

記載されている会社名・製品名は、各社の登録商標または商標です。なお、本文中では®マークは一部明記していません。

## 【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック エレクトリックワークス株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくための発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

パナソニック エレクトリックワークス株式会社  
パナソニック スイッチギアシステムズ株式会社

〒571-8686 大阪府門真市門真 1048 番地

電設資材商品ご相談窓口 個人のお客様 ☎ 0120-878-082 法人のお客様 ☎ 0120-187-431 FAX ☎ 0120-872-460

© Panasonic Electric Works Co., Ltd. 2026

Q-L1873  
0426-0